

CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows はじめての ProcessSaver

第 13 版

2026 年 4月

日本電気株式会社

日頃より弊社製品をご愛顧いただきありがとうございます。

このたび、お客様にご利用いただく「ProcessSaver」でのプロセス監視手順について説明させていただきます。

版数	改版	内容
1.0	2015.03	新規作成
2.0	2016.03	Microsoft .NET Frameworkのダウンロード先URLを追記
3.0	2017.04	バージョンアップに伴い改版
4.0	2018.04	バージョンアップに伴い改版
5.0	2018.06	商標の記載の修正
6.0	2019.04	バージョンアップに伴い改版
7.0	2020.04	バージョンアップに伴い改版
8.0	2021.04	バージョンアップに伴い改版 Microsoft .NET Framework のインストール状態確認の内容修正
9.0	2022.04	バージョンアップに伴い改版 新サポートOS (WindowsServer2022) の記載を追加
10.0	2023.04	バージョンアップに伴い改版
11.0	2024.04	製品の64bit化に伴い、デフォルトインストールフォルダーを変更
12.0	2025.04	バージョンアップに伴い改版
13.0	2026.04	バージョンアップに伴い改版

(1) マニュアルについて

本マニュアルでは、CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows
(以後、ProcessSaver と記載します) の監視手順について説明します。

(2) 商標および著作権について

- ・ その他記載の製品名および会社名は、すべて各社の商標または登録商標です。
なお、本書では®、TMマークを明記しておりません。

1. はじめに	P.4
2. プロセス監視の流れ	P.5
2.1. プロセス監視の仕組み	P.7
3. インストール	P.9
3.1. 事前準備	P.10
3.2. Microsoft .NET Framework のインストール状態確認	P.11
3.3. ProcessSaver のインストール	P.12
4. 監視の設定	P.17
4.1. 再起動スクリプトの作成	P.18
4.2. 設定ファイルの作成	P.20
4.3. プロセス監視の開始	P.35
5. 監視の確認	P.39
5.1. 監視状態の確認	P.40
5.2. 監視対象プロセスの消滅検知および再起動の確認	P.44
5.3. RetryOver の確認	P.51
5.4. プロセス監視の復旧	P.60
5.5. プロセス監視の終了	P.66
6. 自動起動設定について	P.68
6.1. PcheckRunList の設定	P.69
6.2. 自動起動設定の確認	P.75
7. おわりに	P.77

1. はじめに

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows はじめての ProcessSaver」は、ProcessSaver によるプロセス監視の基本的な設定および監視方法について説明します。

プロセス監視の設定および監視手順を一連の流れでご確認いただくことで、ProcessSaver の動作を理解することができます。

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
『』	画面名の前後	『Create Pfile』は、Pfile を作成する画面です。
「」	参照するマニュアル名の前後 参照する章および章のタイトル名の前後	「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows インストールガイド」を参照してください。 「4.1 再起動スクリプトの作成」を参照してください。
【】	ファイル名およびフォルダー名の前後	【インストールフォルダー】¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥【Pfile名】
[]	項目名の前後・タブ名の前後	[ProcessSaver Console] を選択してください。 [Create Pfile] タブを選択してください。
太字	機能名	MsgCheckInterval を設定してください。
斜体、太字	ボタン名・チェックボックス名	OK を押してください。 <i>LocalUser</i> にチェックしてください。

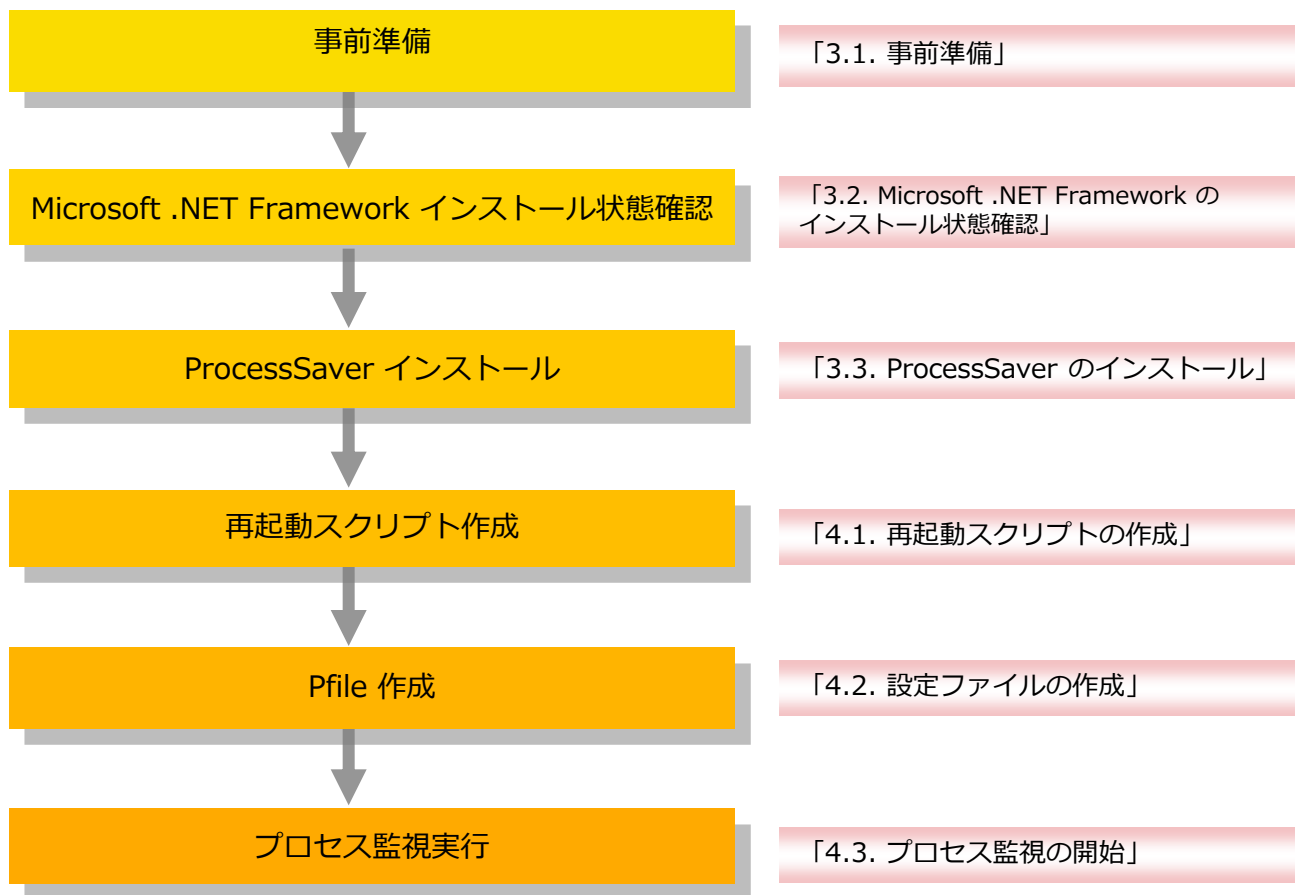
本書では下記のような監視の設定方法を記述します。

ProcessSaver で iexplore.exe (Internet Explorer プロセス) の消滅監視および消滅時の自動再開

2. プロセス監視の流れ

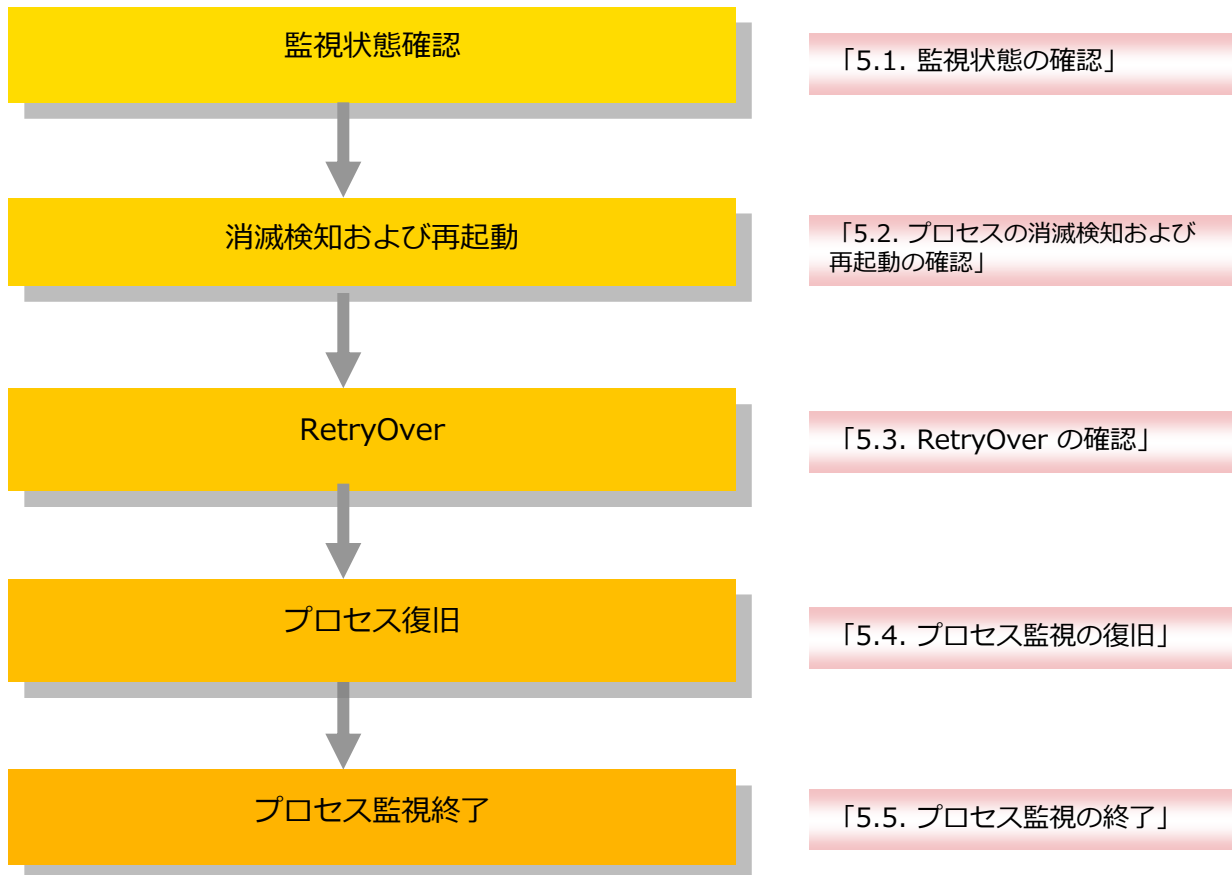
プロセス監視設定およびプロセス監視確認について

- プロセス監視設定



2. (続き)

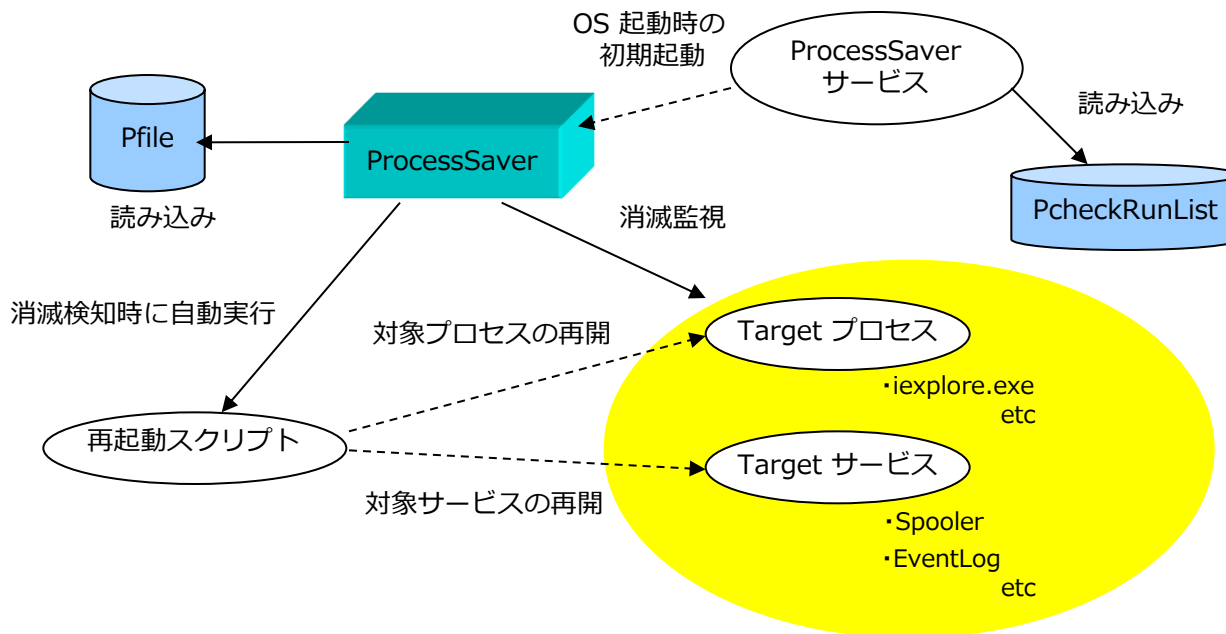
- プロセス監視設定



2.1. プロセス監視の仕組み

一般的なプロセス監視の仕組みについて

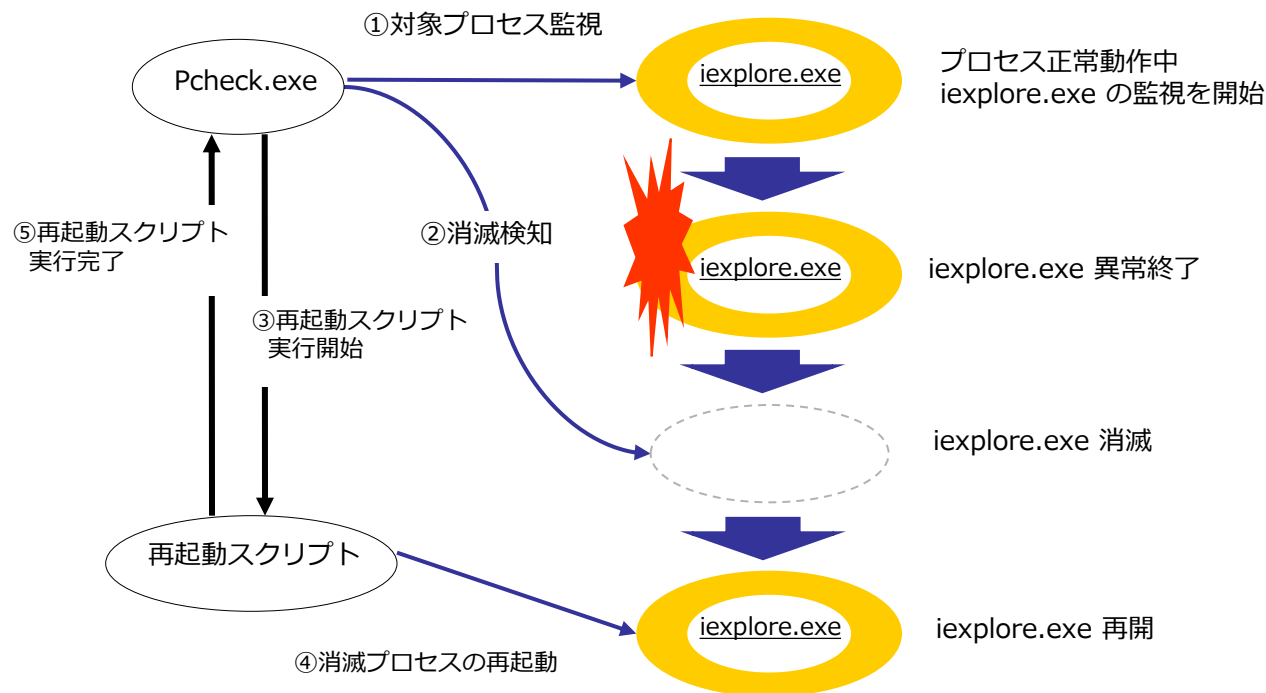
ProcessSaver の一般的なプロセス監視の仕組みは下記の図のようになります。



2.1. (続き)

本書で記述する iexplore.exe (Internet Explorer プロセス) の監視は下記のような流れになります。

- ①プロセス監視を実行する Pcheck.exe を起動します。
- ②監視対象プロセスの存在を一定間隔でチェックし、プロセスの消滅を検知します。
- ③～⑤指定された再起動スクリプトにより、監視対象プロセスを再起動します。



※サービス監視についても同様の流れになります。

3. インストール

インストールについて

インストールおよび各種設定／操作方法の詳細については、

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows インストールガイド」

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows ユーザーズガイド（機能編）」

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows ユーザーズガイド（コンソール編）」

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows ユーザーズガイド（コマンド編）」

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows リリースメモ」

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows クイックリファレンス」

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows 導入ガイド」

を参照してください。

※ すでに本製品をインストール済みの場合は、次のステップ「4. 監視の設定」へお進みください。

3.1. 事前準備

ProcessSaver 導入の事前準備について

- (1) 本製品が含まれるインストール媒体を用意します
- (2) x86_64 対応 CPU 搭載サーバーであることを確認します
- (3) OS のバージョンを確認します
 - Windows Server 2016 Standard
 - Windows Server 2016 Datacenter
 - Windows Server 2019 Standard
 - Windows Server 2019 Datacenter
 - Windows Server 2022 Standard
 - Windows Server 2022 Datacenter
 - Windows Server 2025 Standard
 - Windows Server 2025 Datacenter
- (4) C ドライブに 45MB 以上のディスクの空き容量があることを確認します

3.2. Microsoft .NET Framework のインストール状態確認

Microsoft .NET Framework のインストール状態の確認について

- [サーバー マネージャー] の [役割と機能の追加] より Microsoft .NET Frameworkのインストール状態を確認してください。

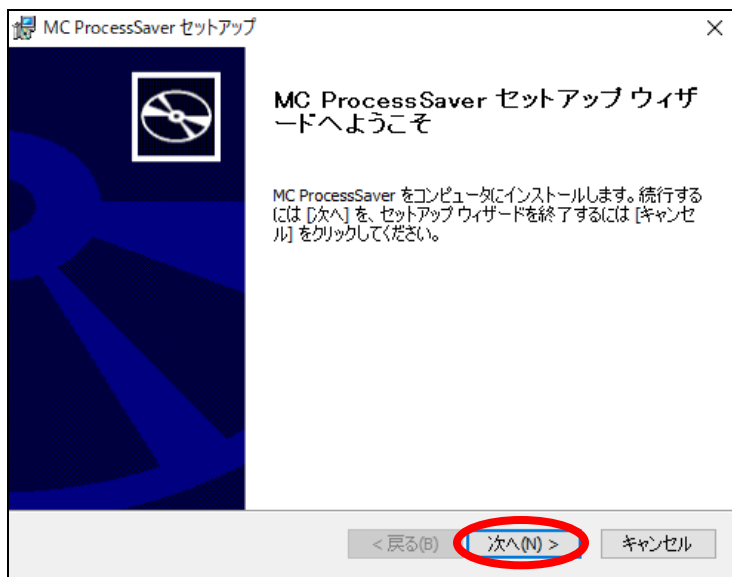
注意

- Microsoft .NET Framework のバージョンは、必ず 4.6.2 以降であることを確認してください。
通常は、対応OSをインストールした場合、プリインストールされます。
- Microsoft .NET Framework の 4.6.2 以降がインストールされていない場合は、ProcessSaver は インストールできません。

3.3. ProcessSaverのインストール

ProcessSaver のインストールについて

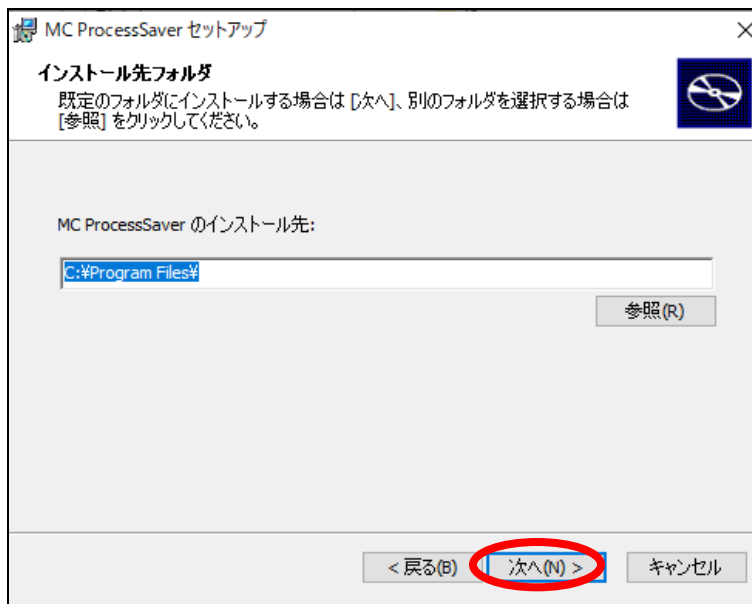
(1) ProcessSaver をインストールします



- ① 本製品が含まれるインストール媒体を CD/DVD ドライブに挿入してください。
- ② インストール媒体の【Setup.exe】を実行してください。左記画面が表示されますので、次へ(N) を押してください。

図1 インストーラ準備画面

3.3. (続き)

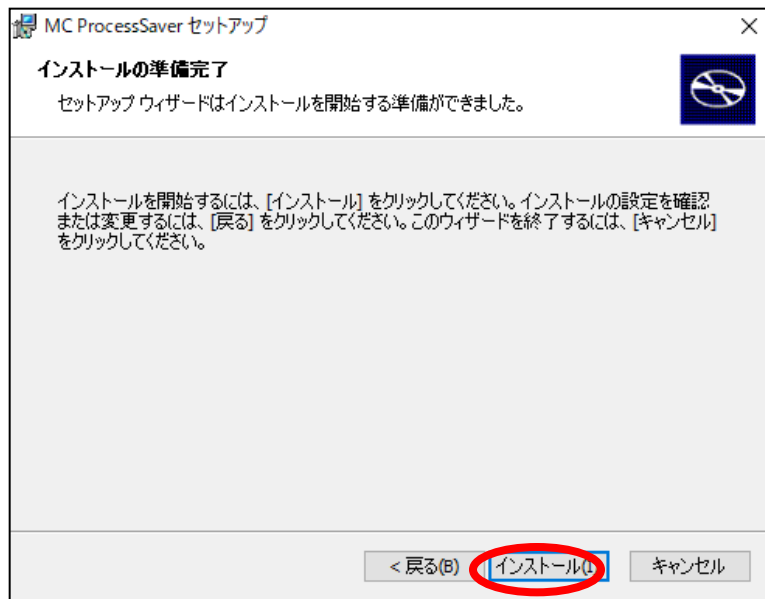


③ インストール先のフォルダーを指定します。

デフォルトのまま、次へ(N) を押してください。

図2 インストール先のフォルダー表示画面

3.3. (続き)



④ インストール(I) を押してインストールを開始してください。

図3 インストール開始画面

3.3. (続き)



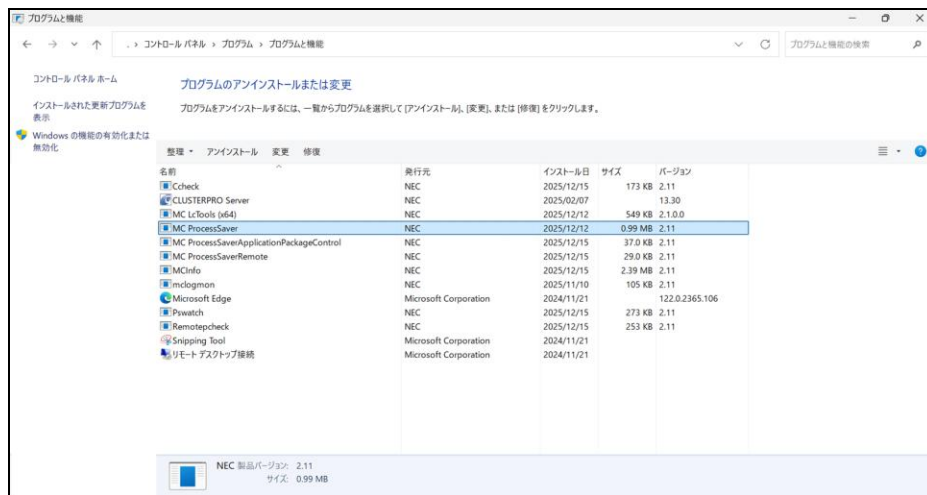
図4 インストール完了画面

- ⑤ ProcessSaver のインストールが完了すると、左記画面が表示されます。
完了(F) を押して画面を終了してください。

以上で、ProcessSaver のインストールは終了です。

ProcessSaver のインストール後の確認

(2) ProcessSaver インストール後の確認をします



『プログラムと機能』で、本製品がインストールされていることを確認してください。

スタートメニューから
[コントロールパネル] → [プログラムと機能]
を選択すると左記画面が表示されます。

一覧に [MC ProcessSaver] が登録されていることを確認してください。

図5 『プログラムと機能』

4. 監視の設定

監視の設定について

再起動スクリプトの作成、設定ファイルの作成、プロセス監視の開始の説明を行います。

4.1. 再起動スクリプトの作成

再起動スクリプトの作成について

再起動スクリプトを作成します。

再起動スクリプトは、Pfile 内に指定され、監視対象プロセスの消滅を検知した場合に実行されます。再起動スクリプトは、実行可能ファイル（batch.exe ファイルなど）を指定することができます。本書では、再起動スクリプトを batch ファイルにて作成する方法を記述します。

テキストエディタを起動します。
本書では、メモ帳を使用します。

スタートメニューから [メモ帳] を選択してください。

4.1. (続き)

テキストエディタの編集

- (1) テキストエディタにて下記のように編集します
- ・ iexplore.exe (Internet Explorer プロセス) の再起動スクリプト

```
@echo off    → ①
explorer http://localhost    → ②
:end
exit        → ③
```

- ① 標準出力を停止させます。
(標準出力停止のための定型文 “@echo off” を記述します。)
- ② プロセスを起動します。
(コマンド実行時にスクリプトを停止させないように注意してください。
その他のプロセスを起動する場合は、“Start” コマンドを使用するとよいでしょう。)
- ③ exit を記述します。
(再起動スクリプトは、バックグラウンドで実行されます。無用なプロセスが残らないよう
“exit” で終了させてください。)

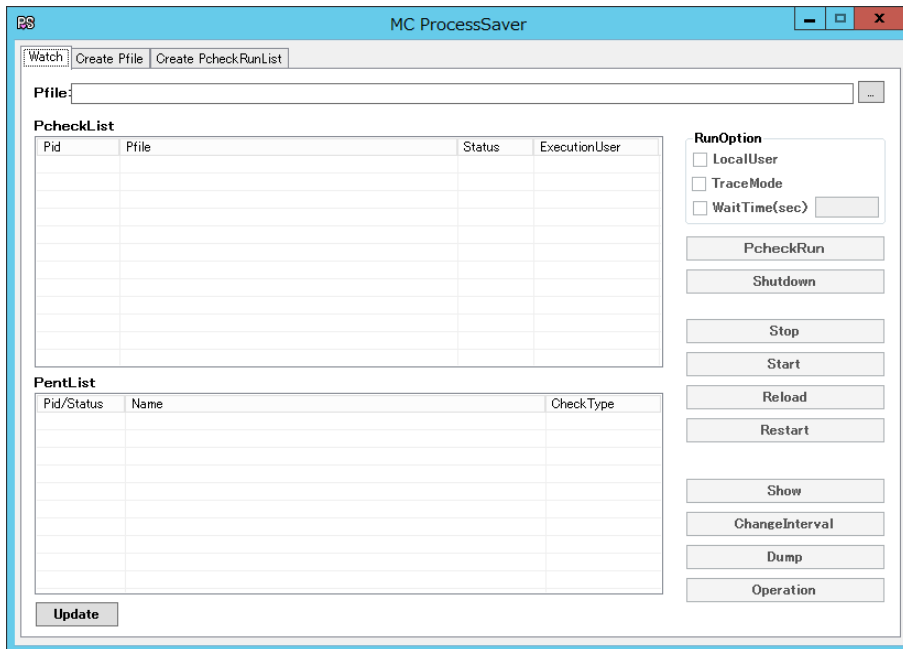
- (2) 作成した再起動スクリプトを保存します
下記のとおりファイルを保存してください。
- ・ 保存フォルダー : “C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile”
 - ・ ファイル名 : Restart_Iexplore_Process.bat
 - ・ ファイルの種類 : すべてのファイル
 - ・ 文字コード : ANSI

4.2. 設定ファイルの作成

設定ファイルの作成について

ProcessSaver で使用する設定ファイルを作成します。

(1) ProcessSaver コンソールを起動します



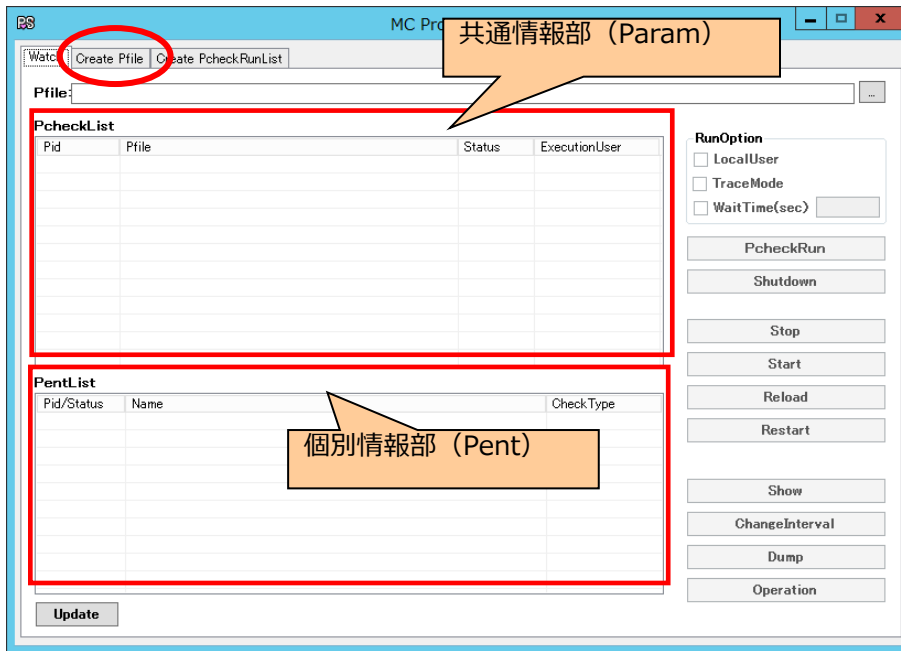
スタートメニューから
[HA] →
[ProcessSaver Console]
を選択してください。

左記画面が表示されます。

図6 『Watch』

4.2. (続き)

(2) 『Create Pfile』に移動します



[Create Pfile] タブを選択してください。

図7 『Create Pfile』

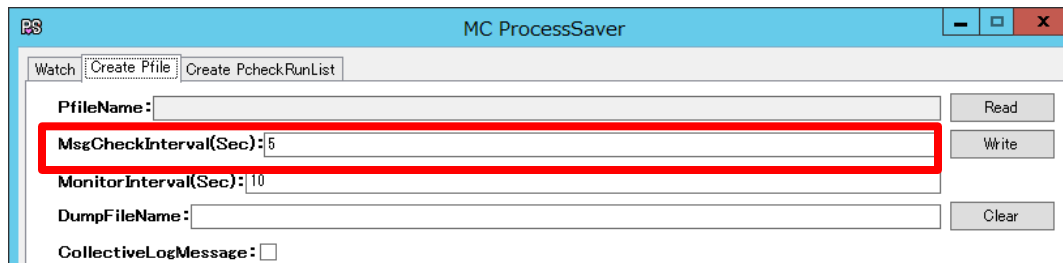
4.2. (続き)

共通情報部 (Param) の設定

(1) 共通情報部 (Param) を設定します

① MsgCheckInterval を設定してください。

※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。



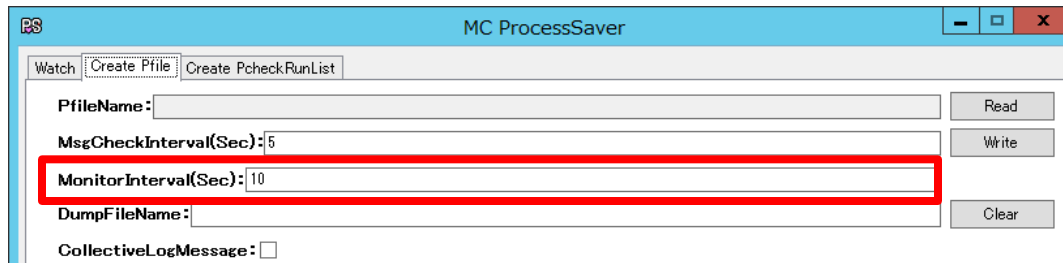
The screenshot shows a window titled "MC ProcessSaver" with a menu bar containing "Watch", "Create Pfile", and "Create PcheckRunList". Below the menu bar, there are several input fields and buttons. The "MsgCheckInterval(Sec):5" field is highlighted with a red box. Other fields include "PfileName:", "MonitorInterval(Sec):10", "DumpFileName:", and "CollectiveLogMessage:" with a checkbox. Buttons for "Read", "Write", and "Clear" are also visible.

図8 『Create Pfile』 Param 部

4.2. (続き)

② MonitorInterval を設定してください。

※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

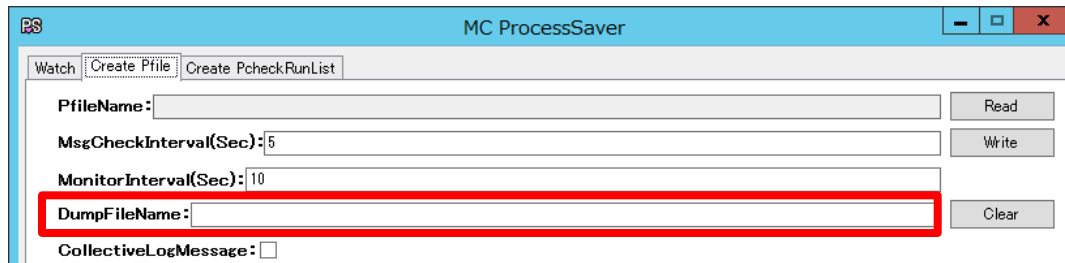


The screenshot shows a window titled "MC ProcessSaver" with a tab labeled "Create Pfile". The window contains several input fields and buttons. The "MonitorInterval(Sec):" field is highlighted with a red border and contains the value "10". Other fields include "PfileName:", "MsgCheckInterval(Sec):5", "DumpFileName:", and "CollectiveLogMessage:" with an unchecked checkbox. Buttons for "Read", "Write", and "Clear" are visible on the right side.

図9 『Create Pfile』 Param 部

4.2. (続き)

- ③ DumpFileName を設定してください。
DumpFileName に 【Pfile_Iexplore_Process.dmp】 を入力してください。



The screenshot shows a Windows application window titled "MC ProcessSaver". The window has a menu bar with "Watch", "Create Pfile", and "Create PcheckRunList". Below the menu bar, there are several input fields and buttons. The "DumpFileName" field is highlighted with a red rectangle. The other fields are "PfileName:", "MsgCheckInterval(Sec): 5", "MonitorInterval(Sec): 10", and "CollectiveLogMessage: ". The buttons are "Read", "Write", and "Clear".

図10 『Create Pfile』 Param 部

4.2. (続き)

- ④ CollectiveLogMessage を設定してください。
※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

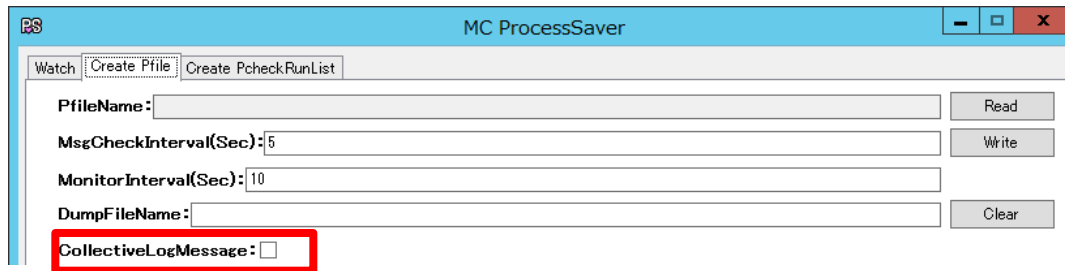
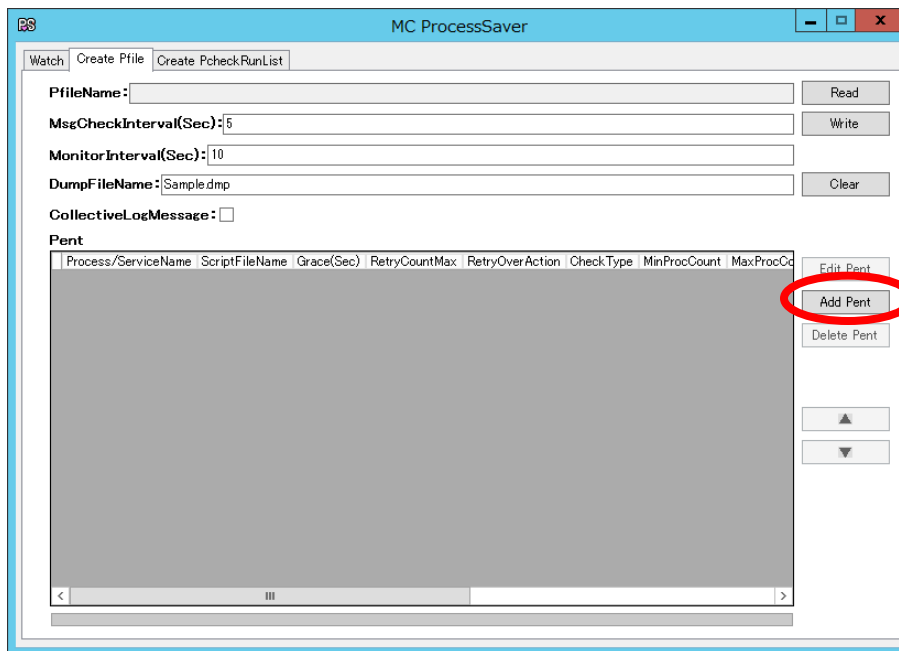


図11 『Create Pfile』 Param 部

4.2. (続き)

個別情報部 (Pent) の設定

(2) 個別情報部 (Pent) を設定します



Add Pent を押して『Pent』を表示してください。

図12 『Create Pfile』

4.2. (続き)

CheckType

Process/ServiceName

ScriptName

Grace(Sec)

RetryCountMax

RetryOverAction

<< Option >>

MinProcCount

MaxProcCount

GroupTag

IncludeStrings

ClearCmd ...

RestartWaitTime

RestartTimeout

PnameFullMatch

OK Cancel

Add Pent を押すと左記画面が表示されます。

図13 『Pent』

4.2. (続き)

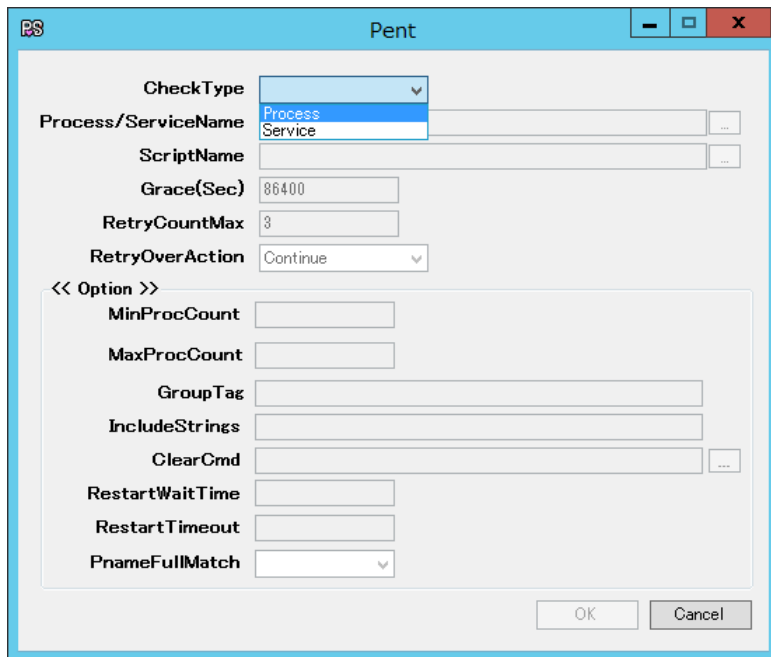


図14 『Pent』

① CheckType を設定してください。

CheckType のプルダウンリストから
Process を選択してください。

4.2. (続き)

② Process/ServiceName を設定してください。

GetActive を押して『ProcessActiveList』の iexplore.exe を選択し、OK を押してください。

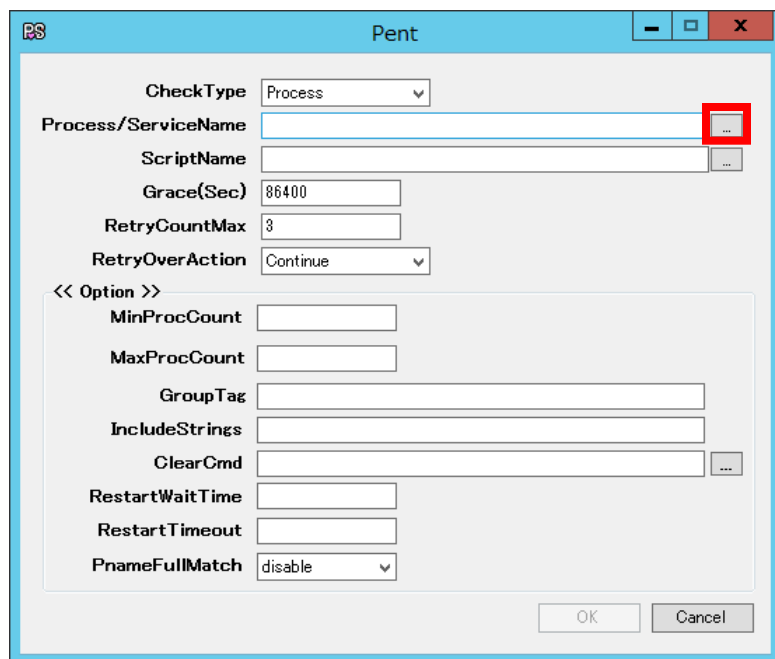


図15 『Pent』

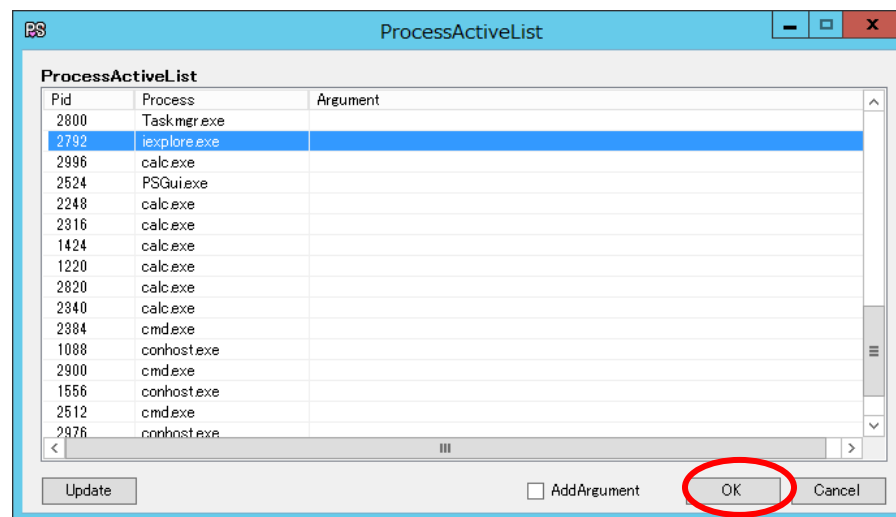


図16 『ProcessActiveList』

4.2. (続き)

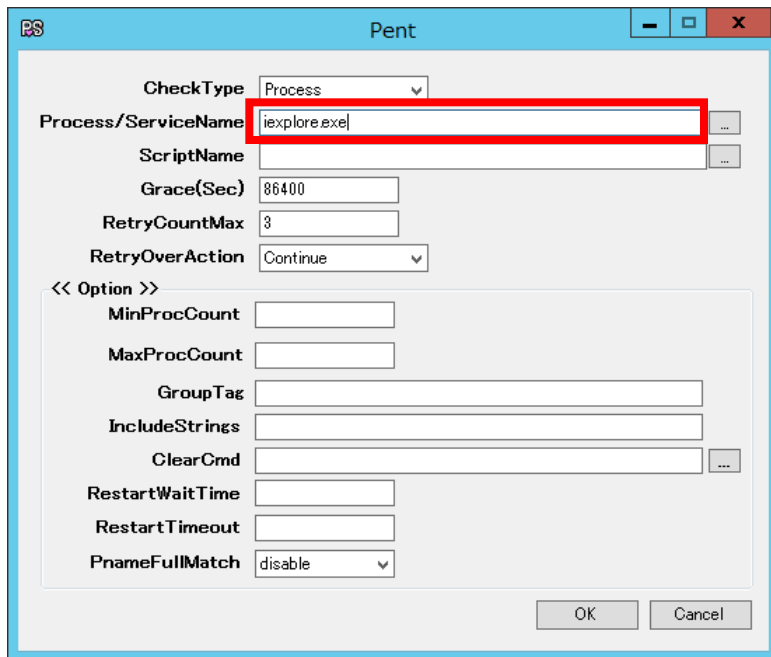


図17 『Pent』

－ 補足 －

Process/ServiceName に
直接プロセス名 (iexplore.exe) を
入力することも可能です。

4.2. (続き)

③ ScriptName を設定してください。

Script を押して「4.1. 再起動スクリプトの作成」で作成した再起動スクリプト【Restart_Iexplore_Process.bat】を選択してください。

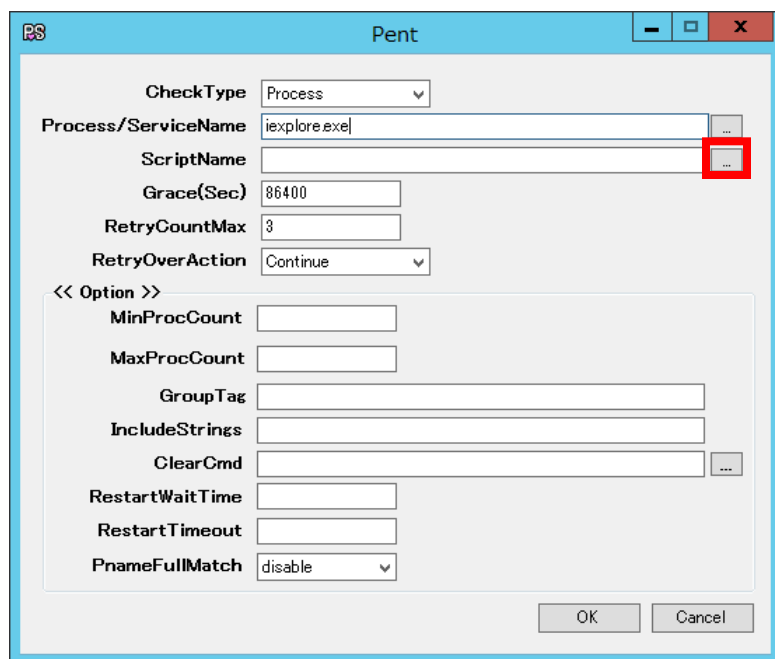


図18 『Pent』

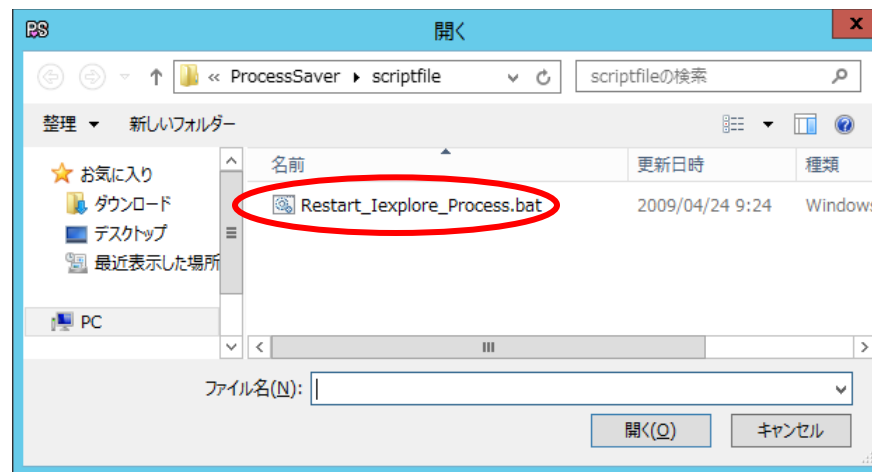


図19 『ファイルを開く』

4.2. (続き)

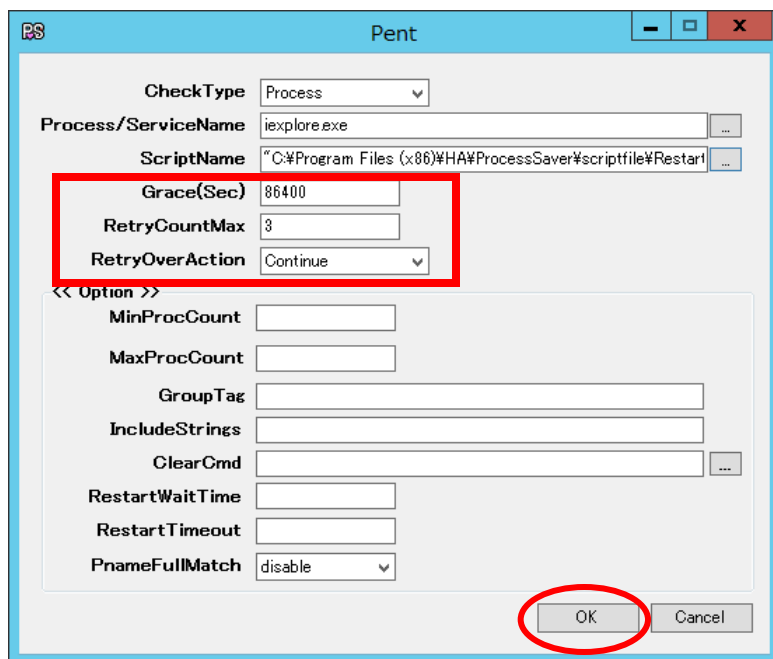


図20 『Pent』

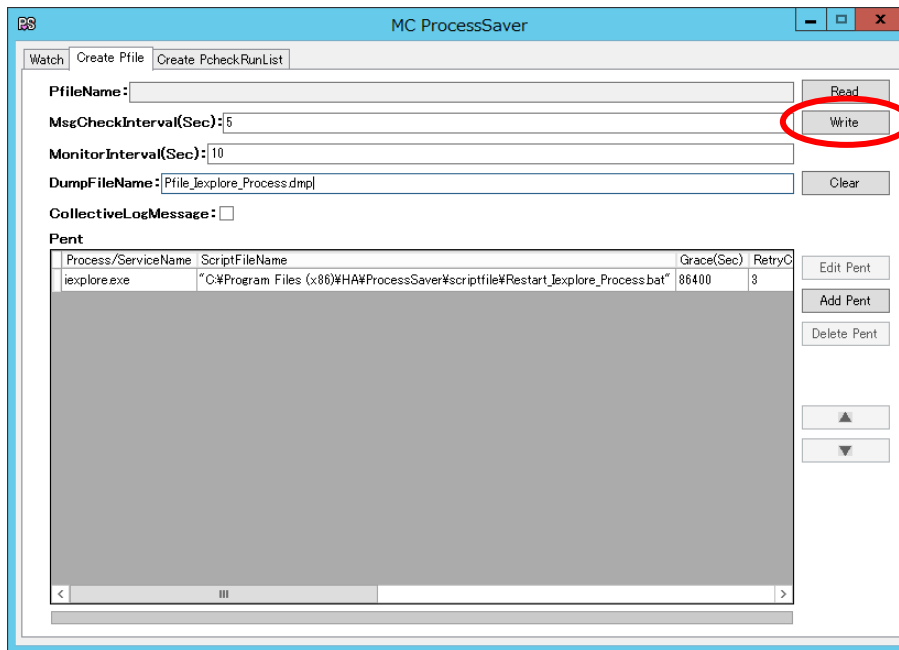
- ④ Grace を設定してください。
※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。
- ⑤ RetryCountMax を設定してください。
※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。
- ⑥ RetryOverAction を設定してください。
※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

左記のとおり設定内容を確認し、OK を押してください。

4.2. (続き)

Pfile の保存

(3) Pfile を保存します



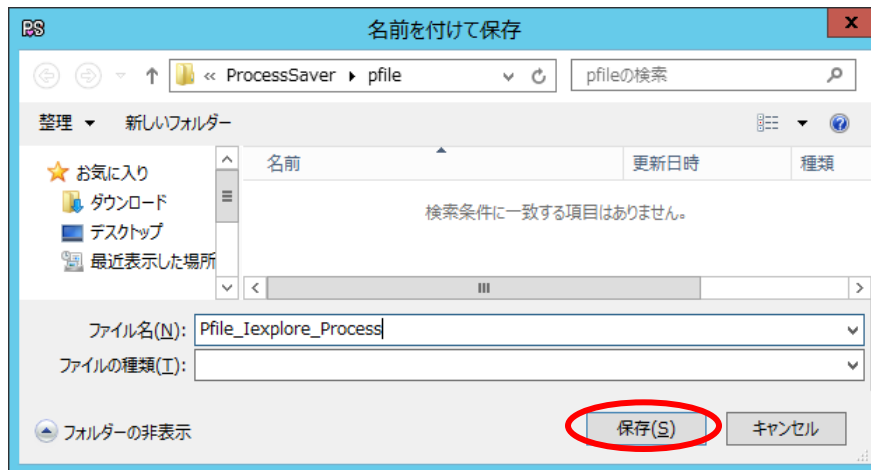
The screenshot shows the 'MC ProcessSaver' application window with the 'Create Pfile' tab selected. The 'Write' button is highlighted with a red circle. The 'Pent' table contains the following data:

Process/ServiceName	ScriptFileName	Grace(Sec)	RetryC
ieexplore.exe	"C:\Program Files (x86)\HA#\ProcessSaver#scriptfile#Restart_Iexplore_Process.bat"	86400	3

- ① 『Create Pfile』で設定した内容を確認し、*Write* を押して『名前を付けて保存』を表示してください。

図21 『Create Pfile』

4.2. (続き)



- ② [ファイル名] に【Pfile_Iexplore_Process】を入力し、保存(S) を押して Pfile を保存してください。

図22 『名前を付けて保存』

4.3. プロセス監視の開始

監視の開始について

ProcessSaver で監視を開始します。

『Watch』に移動します。

[Watch] タブを選択してください。

図23 『 Watch 』

4.3. (続き)

- (1) Internet Explorer を1つだけ起動します
スタートメニューから [Internet Explorer] を選択してください。
※ 複数起動している場合は、1つだけ起動させた状態にし、残りはすべて終了してください。
- (2) 監視を開始する Pfile を選択します
Pfile 選択 を押して「4.2. 設定ファイルの作成」で作成した Pfile 【Pfile_Iexplore_Process】を選択してください。

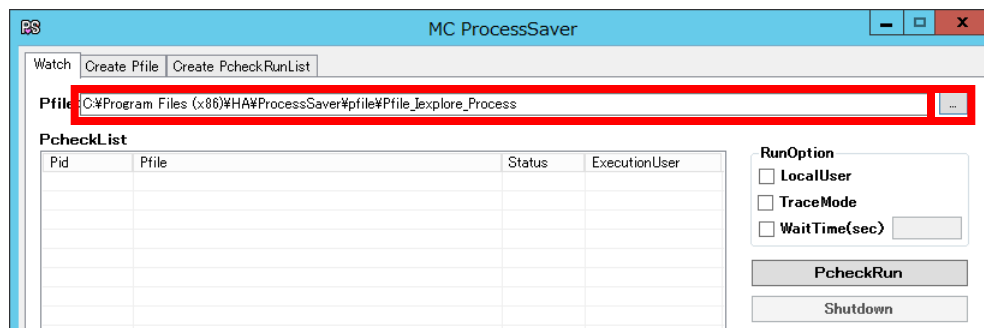


図24 『Watch』

4.3. (続き)

(3) Pcheck を起動します

選択した Pfile の監視を開始します。

RunOption の *LocalUser* にチェックを入れ、*PcheckRun* を押してください。

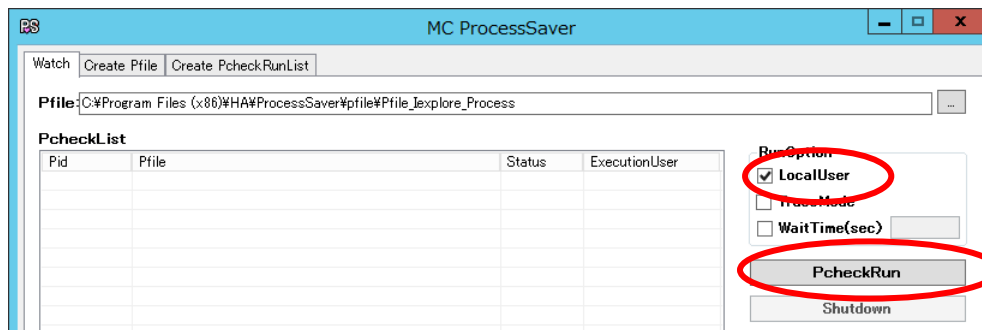


図25 『Watch』

4.3. (続き)

下記画面が表示されますので、OK を押してプロセスの監視を開始してください。

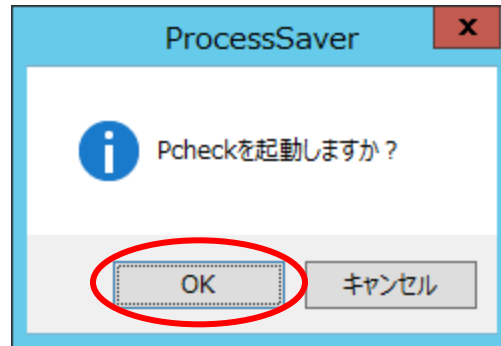


図26 PcheckRun 確認画面

5. 監視の確認

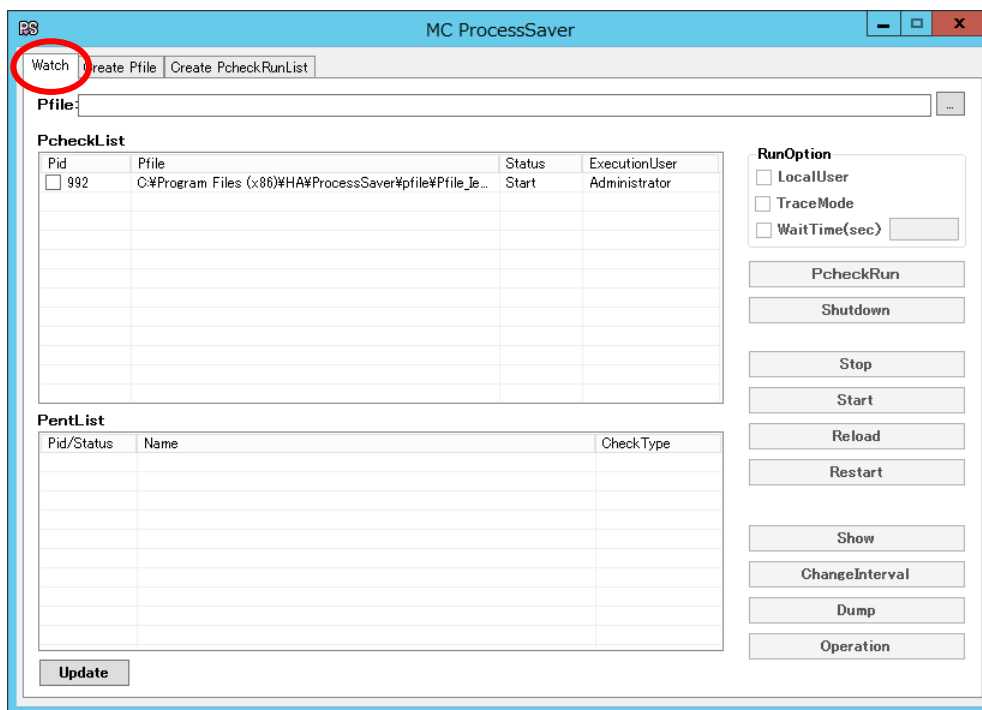
監視の確認について

監視状態、消滅検知と再起動、プロセス再起動、 RetryOver の状態、プロセス監視の再開と確認について説明を行います。

5.1. 監視状態の確認

監視状態の確認について

ProcessSaver の監視状態を確認します。



『Watch』に移動してください。

図27 『Watch』

5.1. (続き)

Pcheck の起動確認

(1) Pcheck の起動を確認します

PcheckList の内容を確認し、

“C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_Iexplore_Process”
が表示されていることを確認してください。

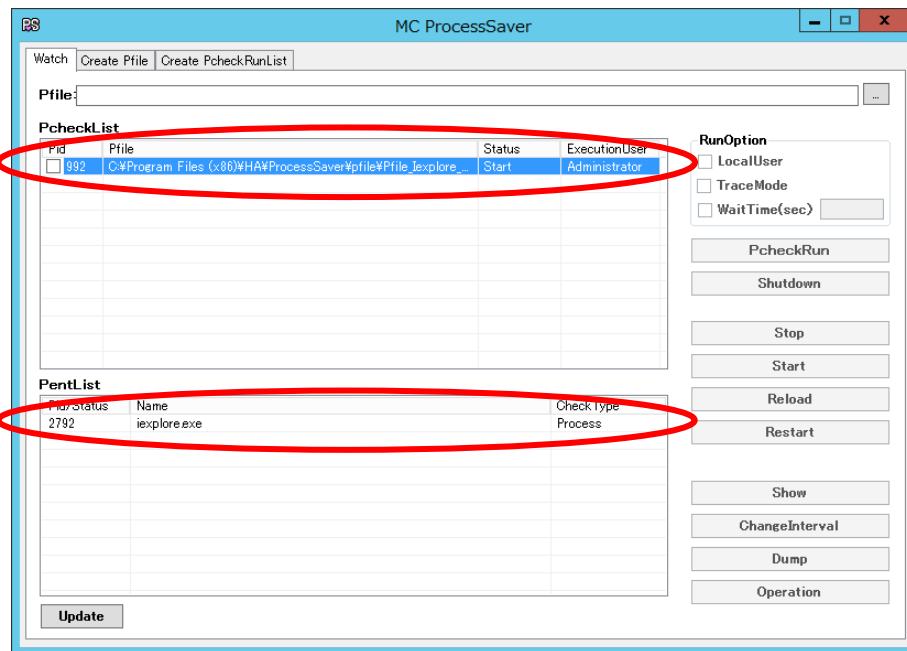


図28 『Watch』

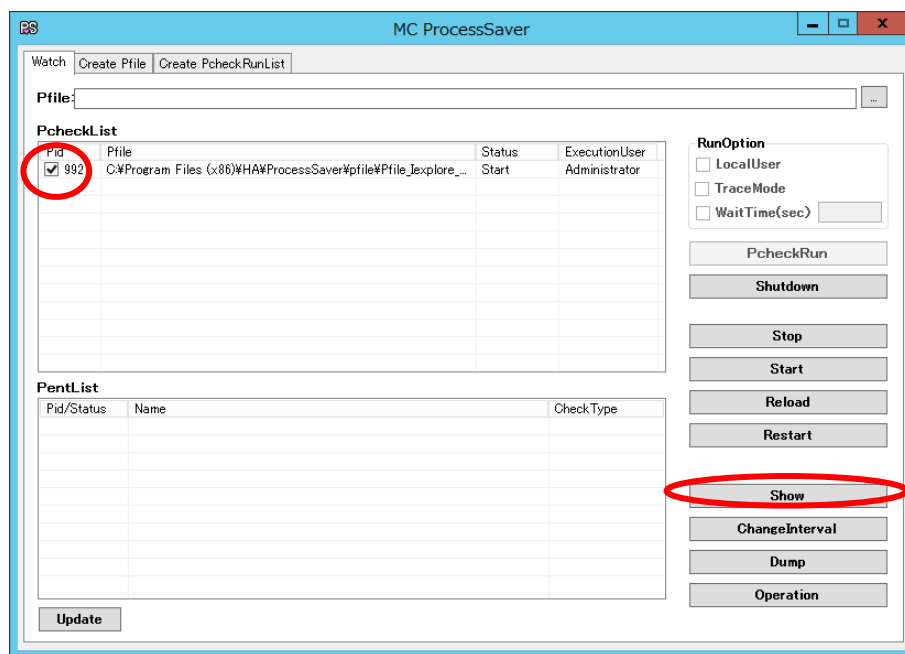
5.1. (続き)

監視情報の詳細確認

(2) 監視情報の詳細を確認します

① PcheckList の

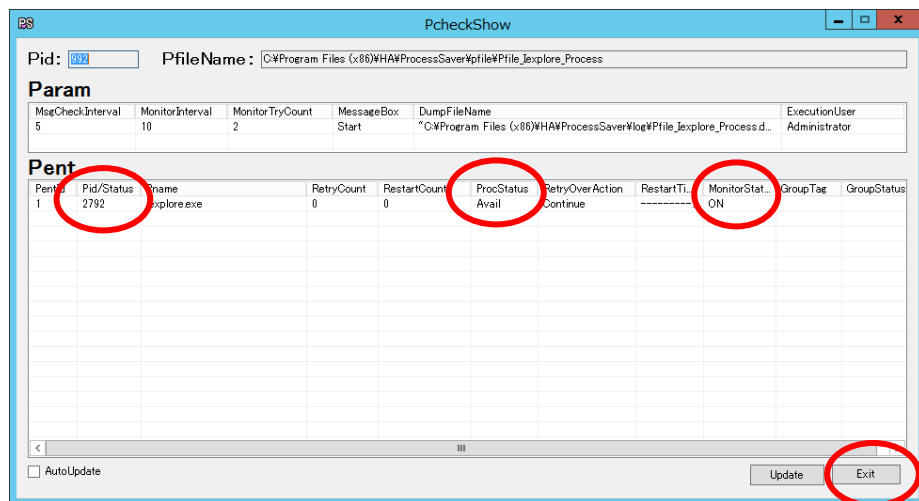
“C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\Pfile_Iexplore_Process”
にチェックを入れてください。



② *Show* を押してください。

5.1. (続き)

監視状況の詳細が表示されます。
詳細が下記のようにになっていることを確認してください。



Pid/Status : xxx (実際に割り振られている
Pidが表示されます)
ProcStatus : Avail
MonitorStatus : ON

図30 『Pcheck Show』

③ *Exit* を押して『Pcheck Show』を閉じてください。

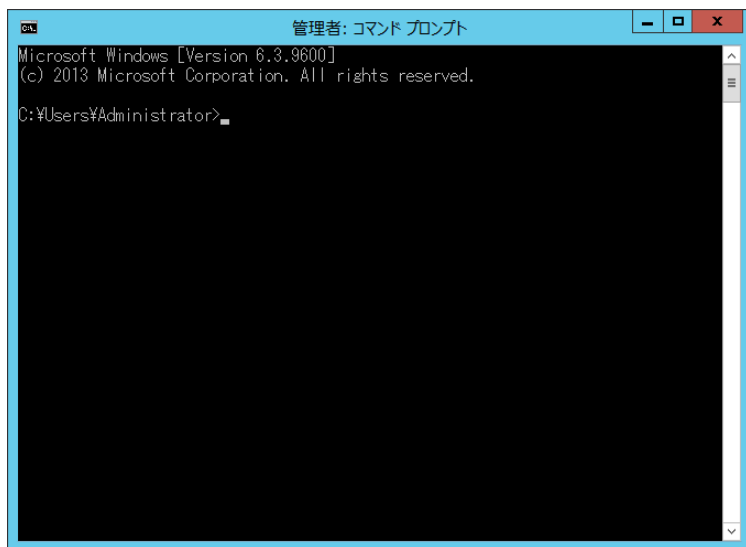
5.2. 監視対象プロセスの消滅検知および再起動の確認

消滅検知と再起動の確認について

ProcessSaver による消滅検知と再起動を確認します。

監視対象プロセスを停止させ、停止を検知して再開されることを確認します。

(1) プロセスを終了（消滅）させます



- ① スタートメニューから
[コマンドプロンプト]
を選択してください。
左記画面が表示されます。

図31 『コマンドプロンプト』

5.2. (続き)

- ② tasklist コマンドを実行し、監視対象プロセスの起動確認と Pid の確認を行います。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 例 -

```
C:¥ > tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

イメージ名	PID	セッション名	セッション#	メモリ使用量
iexplore.exe	2792	Console	0	45,824 K

```
C:¥ >
```

5.2. (続き)

③ taskkill コマンドを実行し、監視対象プロセスを強制終了させます。

taskkill /F /PID XXX (XXX は、②で確認した Pid を入力してください。)

- 出力例 -

```
C:¥ > taskkill /F /PID 2792
```

```
成功: PID 2792 のプロセスは強制終了されました。
```

```
C:¥ >
```

5.2. (続き)

プロセス再起動の確認

(2) プロセスの再起動を確認します。

約10秒後(※)、iexplore.exe が再開されていることを確認します。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 出力例 -

```
C:¥ > tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

イメージ名	PID	セッション名	セッション#	メモリ使用量
iexplore.exe	6833	Console	0	45,824 K

```
C:¥ >
```

- ※ ProcessSaver は Pfile の Param に設定されている MonitorInterval 間隔でチェックしています。
今回の設定では 10 秒ごとにプロセスの存在をチェックしているため、前回のチェック時から 10 秒後にプロセスの消滅を検知することになります。

5.2. (続き)

(3) イベントログにて監視対象プロセスの消滅検知と再起動が正常に行われたことを確認します

スタートメニューから
[コントロールパネル] → [管理ツール] → [イベントビューアー]
を選択してください。

『イベントビューアー』の [Application] を選択してください。
次ページの★1、★2 のメッセージ内容を確認します。

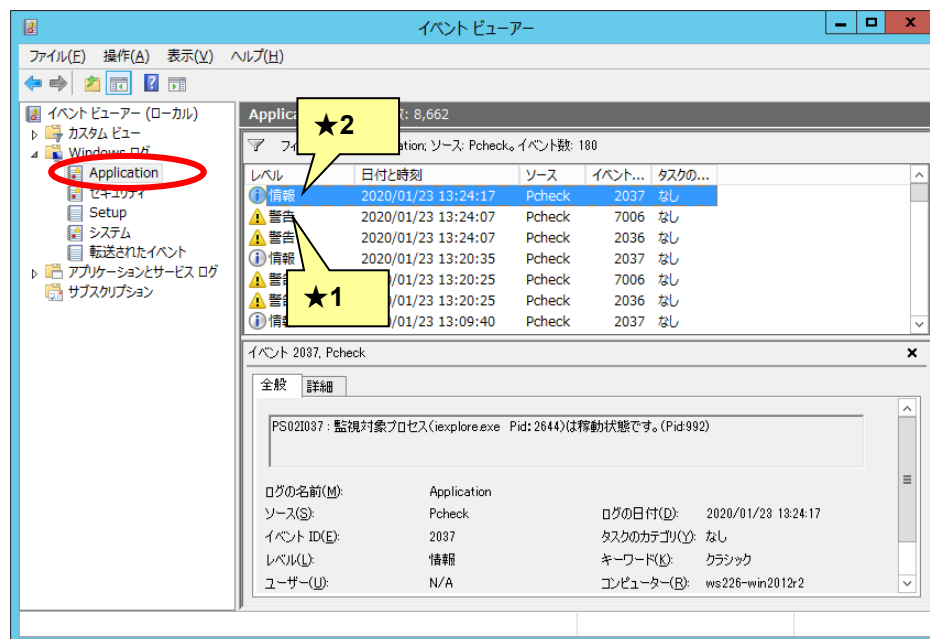


図32 『イベントビューアー』

5.2. (続き)

★1 iexplore.exe の再起動スクリプトを実行したメッセージ

- 出力例 -

ソース : Pcheck

種類 : 警告

説明 : PS07W006 :監視対象プロセスを再起動します。(iexplore.exe)(Pid:992)

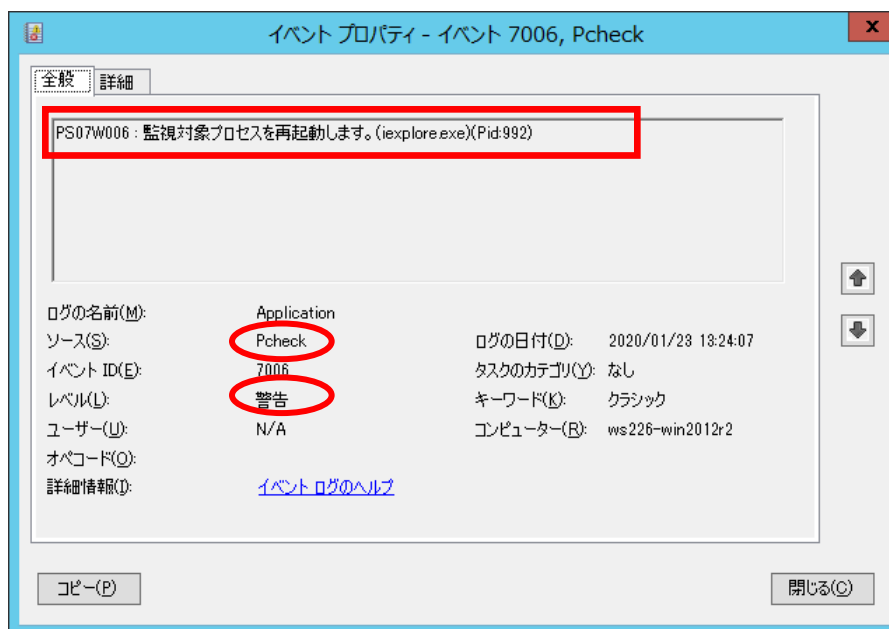


図33 『イベントのプロパティ』

※ 説明に記述されている (Pid:992) は、Pcheck.exe (監視プログラム) の Pid です。

5.2. (続き)

★2 iexplore.exe の再開を確認したメッセージ

- 出力例 -

ソース : Pcheck

種類 : 情報

説明 : 監視対象プロセス (iexplore.exe, Pid:2644) は稼働状態です。 (Pid:992)

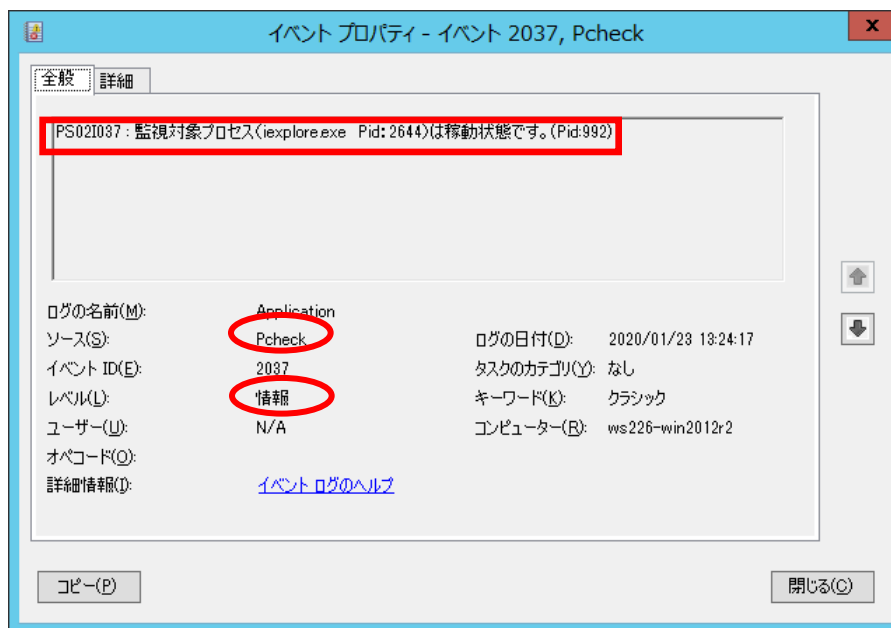


図34 『イベントのプロパティ』

※ 説明に記述されている (Pid:992) は、Pcheck.exe (監視プログラム) の Pid です。

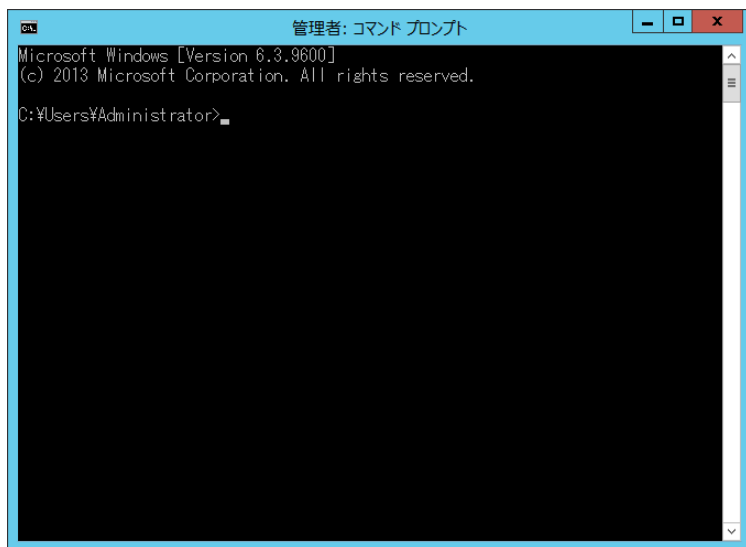
5.3. RetryOver の確認

RetryOver の状態確認について

システムの状態によっては、監視対象プロセス消滅/停止を検知した後、再起動/再開することができない場合があります。

RetryOver の状態を確認します。

- (1) プロセスの消滅と再起動を繰り返し、RetryOver を発生させます



- ① スタートメニューから [コマンドプロンプト] を選択してください。左記画面が表示されます。

図35 『コマンドプロンプト』

5.3. (続き)

- ② tasklist コマンドを実行し、監視対象プロセスの Pid を確認します。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 例 -

```
C:¥ > tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
イメージ名                PID セッション名 セッション#   メモリ使用量
=====
iexplore.exe              5960 Console           0    45,824 K
C:¥ >
```

5.3. (続き)

- ③ taskkill コマンドを実行し、監視対象プロセスを強制終了させます。

taskkill /F /PID XXX (XXX は、②で確認した Pid を入力してください。)

- 出力例 -

```
C:¥ > taskkill /F /PID 5960
```

```
成功: PID 5960 のプロセスは強制終了されました。
```

```
C:¥ >
```

5.3. (続き)

④ 10 秒程度待ち合わせる。

※ Grace 値に指定された時間内に Pfile に設定した RetryCount (3 回) を超えた場合に RetryOver となり、監視は終了します。

次回リトライまでに Grace 値を超えた場合、RetryCount はクリアされます。

⑤ 手順 ② ~ ④ を 4 回繰り返します。

5.3. (続き)

(2) tasklist コマンドを実行し iexplore.exe が起動されていないことを確認します

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 出力例 -

```
C:¥ > tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"  
情報: 指定された条件に一致するタスクは実行されていません。  
C:¥ >
```

5.3. (続き)

(3) 監視対象プロセスが RetryOver となったことを ProcessSaver コンソール で確認します

① 『Watch』 に移動してください。

PcheckList の

“C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_Iexplore_Process”

にチェックを入れてください。

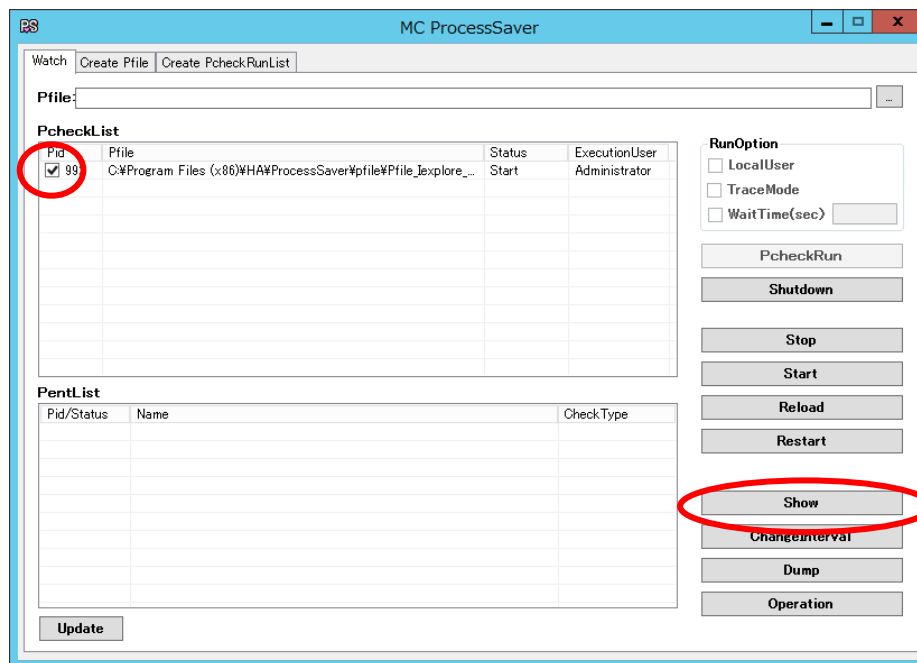


図36 『Watch』

② Show を押してください。

5.3. (続き)

- ③ 『Pcheck Show』が表示されます。
ProcStatus が [RetryOver] になっていることを確認してください。
※ 監視対象プロセスが RetryOver になったため、対象の行が赤く表示されています。

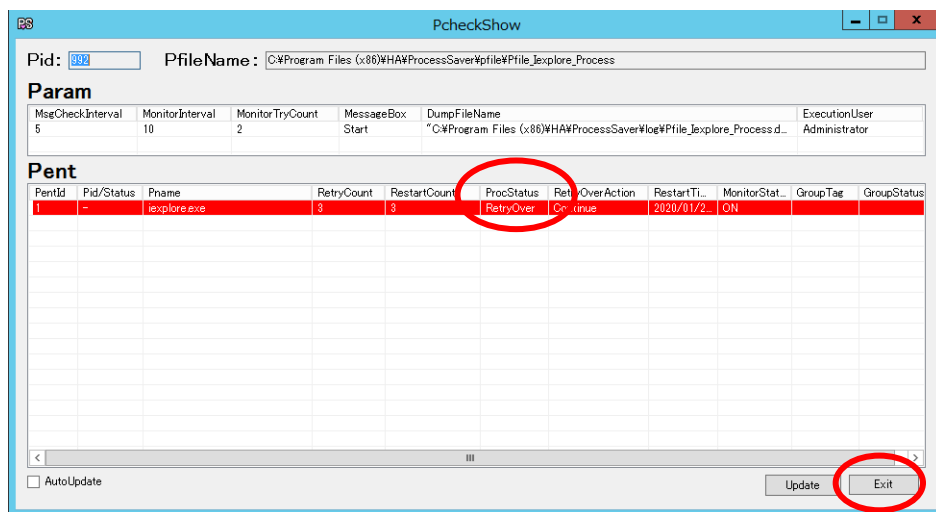


図37 『Pcheck Show』

- ④ *Exit* を押して 『Pcheck Show』 を閉じてください。

5.3. (続き)

- (4) イベントログにて監視対象プロセスが RetryOver になったことを確認します。
スタートメニューから
[コントロールパネル] → [管理ツール] → [イベントビューアー]
を選択してください。

『イベントビューアー』の [Application] を選択してください。
下記画面の ★ のメッセージ内容を確認します。

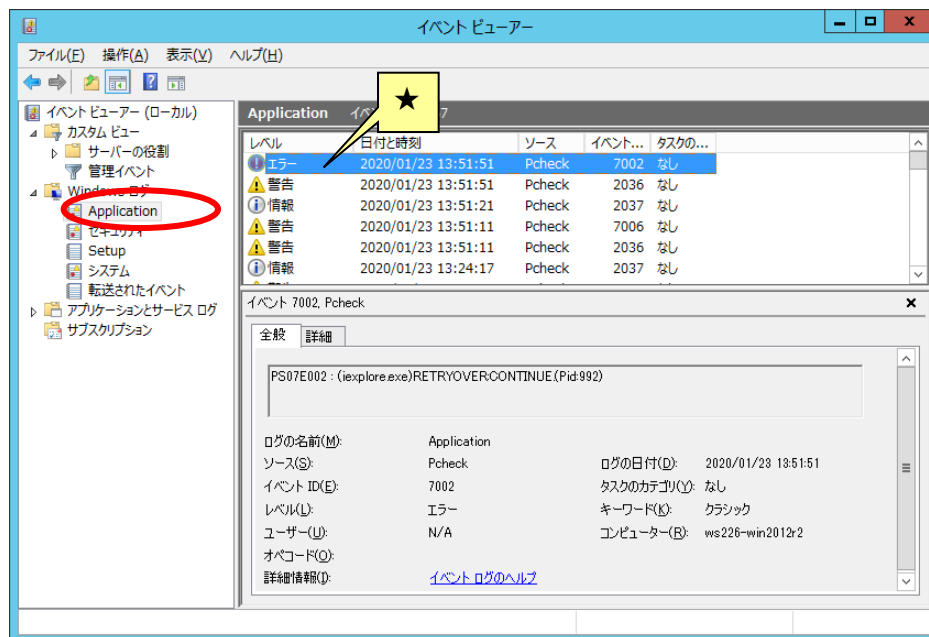


図38 『イベントビューアー』

5.3. (続き)

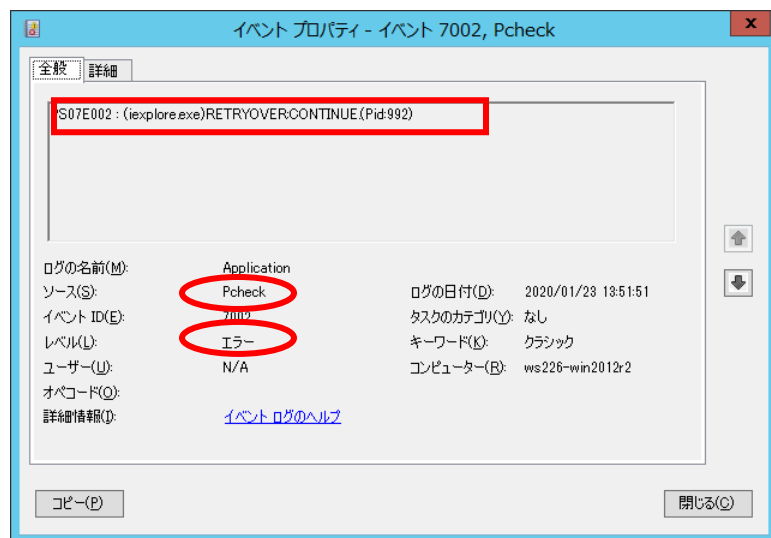
★ iexplore.exe の監視が RetryOver したメッセージ

- 出力例 -

ソース : Pcheck

種類 : エラー

説明 : PS07E002 : (iexplore.exe)RETRYOVER:CONTINUE.(Pid:992)



※ RetryOver となった場合の処理は、RetryOverAction の指定によって異なります。

今回の場合は、Continue を指定しているため監視を終了しますが、Pcheck.exe 自体は終了しません。

RetryOverAction には下記を指定することができます。

Continue : RetryCountMax に達したプロセスを監視対象からはずします。

Exit : クラスタ環境の設定により、サーバー切り替えにつながる終了処理を行います。

Shutdown : Pcheck.exe を終了します。

図39 『イベントのプロパティ』

5.4. プロセス監視の復旧

プロセス監視の再開について

「5.3. RetryOver の確認」で RetryOver となった場合、プロセス監視は終了します。再度監視を始めるには下記の手順を行います。

(1) iexplore.exe プロセスの起動と確認をします。

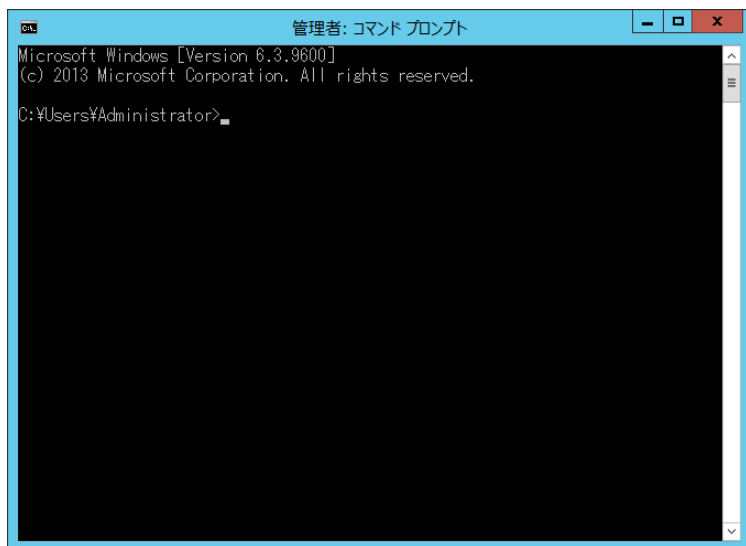


図40 『コマンドプロンプト』

- ① スタートメニューから [コマンドプロンプト] を選択してください。左記画面が表示されます。

5.4. (続き)

- ② 下記のコマンドを実行し、iexplore.exe を起動指定してください。
Internet Explorer の画面が表示されます。

```
C:¥ > explorer http://localhost
```

5.4. (続き)

- ③ tasklist コマンドを実行し、iexplore.exe が起動していることを確認します。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 例 -

```
C:¥ > tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

イメージ名	PID	セッション名	セッション#	メモリ使用量
iexplore.exe	760	Console	0	45,824 K

```
C:¥ >
```

5.4. (続き)

ieexplore.exe プロセス監視の再開と確認

(2) ieexplore.exe プロセス監視の再開と確認をします

- ① 『Watch』に移動してください。
PcheckList の
“C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_Iexplore_Process”
にチェックを入れてください。

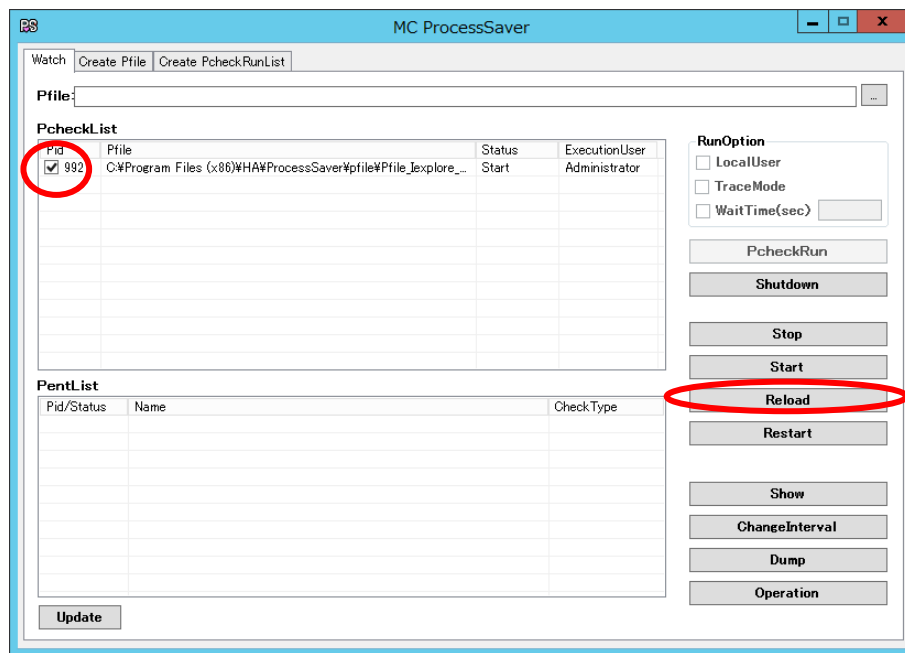


図41 『Watch』

- ② *Reload* を押してください。

5.4. (続き)

- ③ 下記画面が表示されますので、はい(Y) を押してプロセスの監視を再開してください。

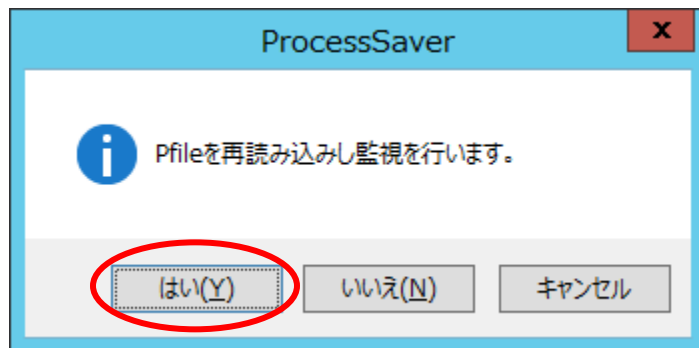


図42 Reload 確認画面

5.4. (続き)

- ④ PcheckList の
“C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_Iexplore_Process”
にチェックを入れ、*Show* を押してください。

ProcStatus が [Avail] になっていることを確認してください。

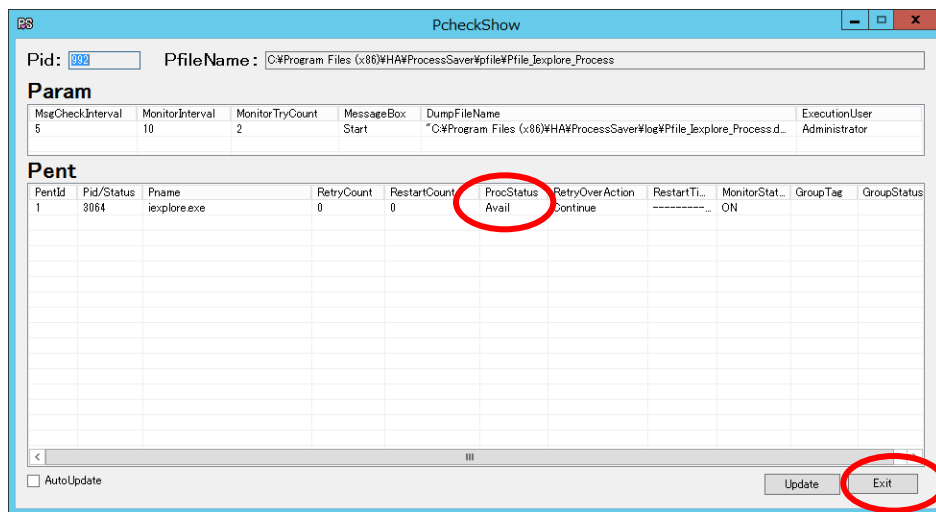


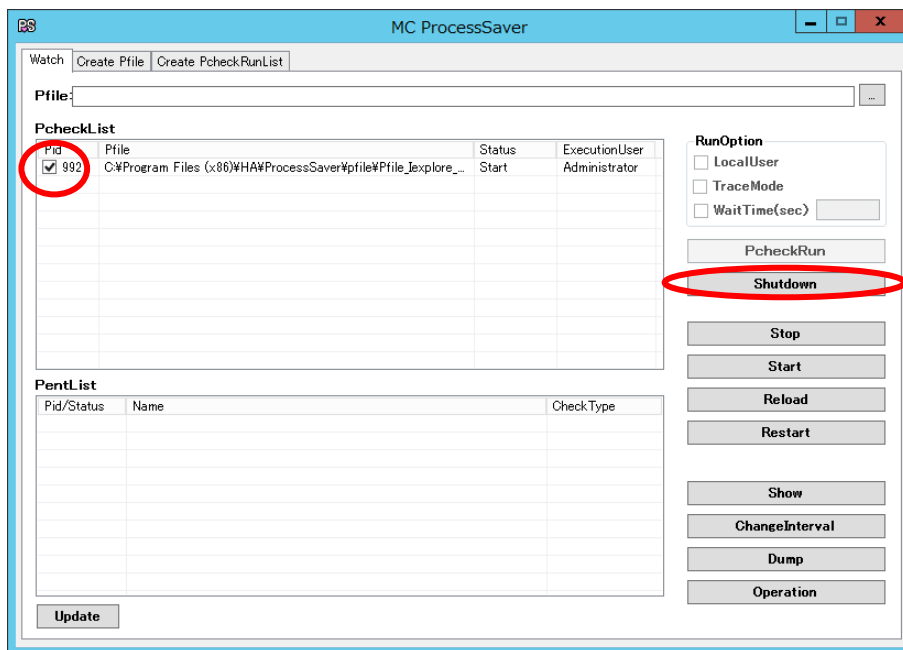
図43 『Pcheck Show』

- ⑤ *Exit* を押して 『Pcheck Show』 を閉じてください。

5.5. プロセス監視の終了

プロセス監視の終了手順について

ProcessSaver のプロセス監視の終了手順を確認します。



(1) 『Watch』に移動します
PcheckList に表示されている行に
チェックを入れてください。

(2) *Shutdown* を押してください。

図44 『Watch』

5.5. (続き)

(3) 下記画面が表示されますので、はい(Y) を押してプロセス監視を終了してください。

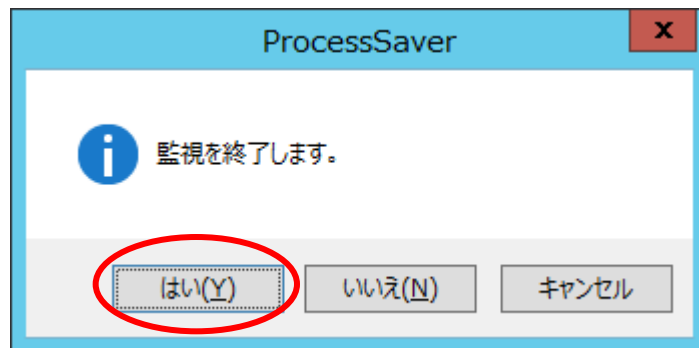


図45 Shutdown 確認画面

6. 自動起動設定について

自動起動設定について

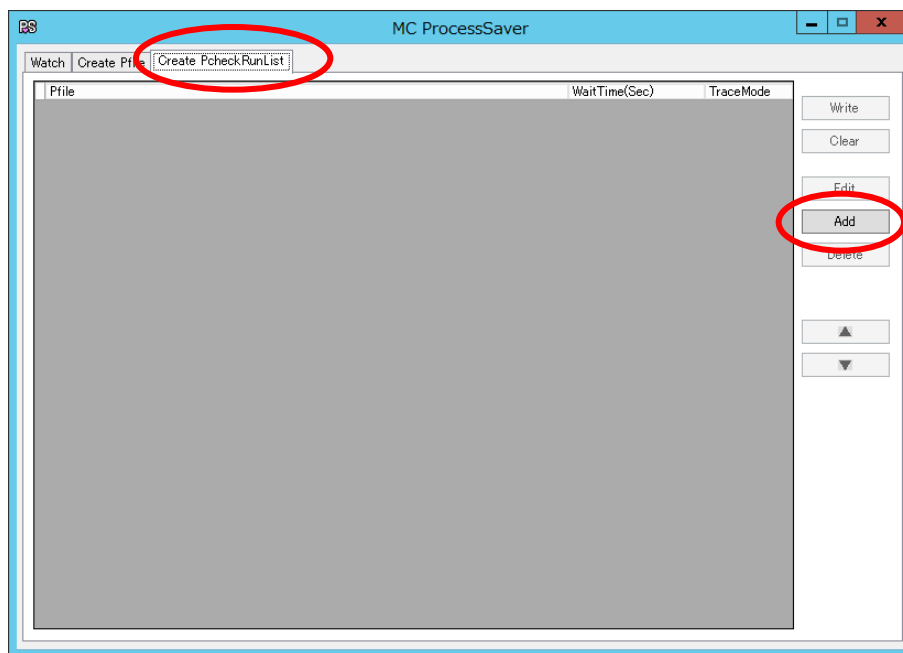
OS 起動時に、ProcessSaver による監視の自動起動の設定と確認について説明を行います。

6.1. PcheckRunList の設定

PcheckRunList の設定について

OS 起動時に監視を自動的に開始する設定ファイルを作成します。

(1) 『Create PcheckRunList』に移動します

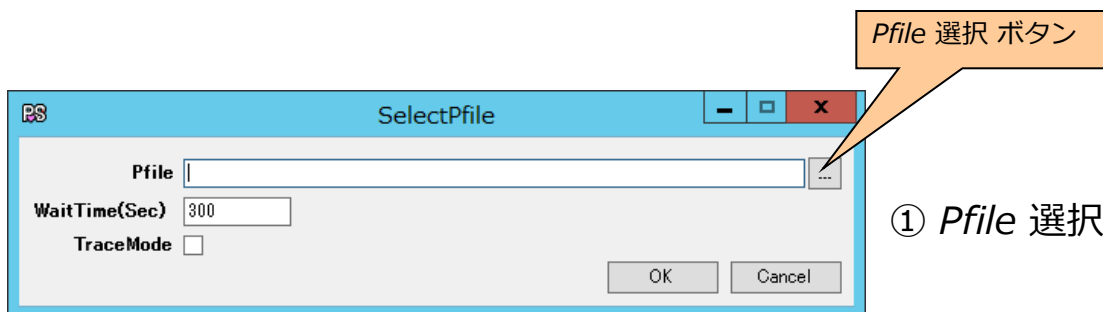


- ① [Create PcheckRunList] タブを選択してください。
- ② Add を押して『SelectPfile』を表示させます。

図46 『Create PcheckRunList』

6.1. (続き)

(2) PcheckRunList に追加する Pfile を選択します

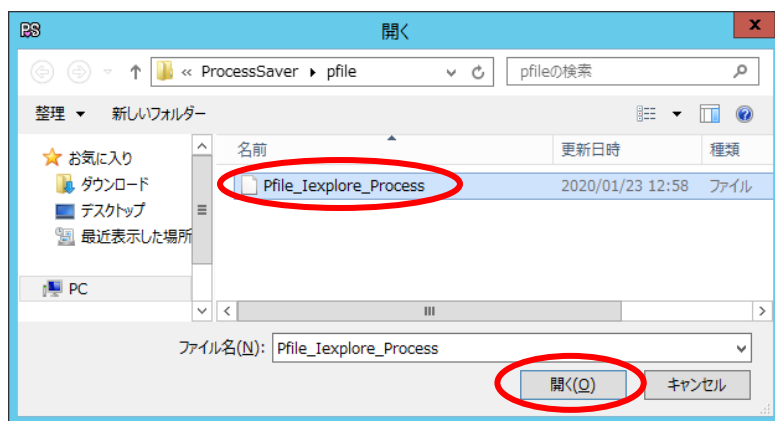


① Pfile 選択 を押してください。

図47 『SelectPfile』

6.1. (続き)

- ② 『ファイルを開く』が表示されます。

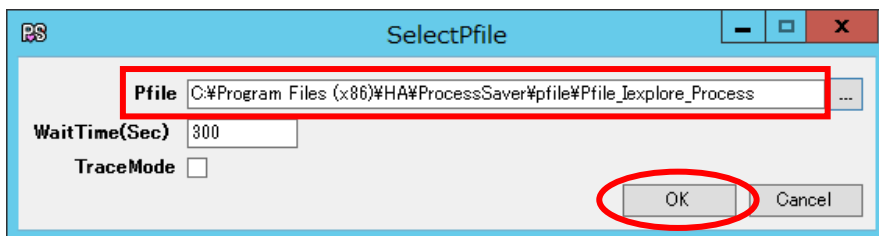


「4.2. 設定ファイルの作成」にて作成した【Pfile_Iexplore_Process】を選択し、開く (O) を押してください。

図48 『ファイルを開く』

6.1. (続き)

- ③ 『SelectPfile』が表示されます。

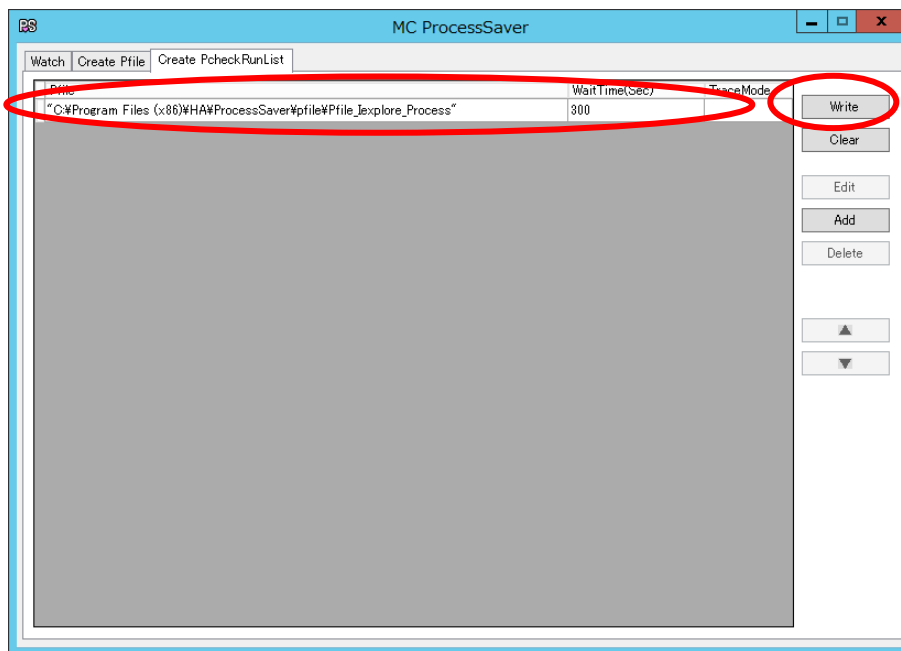


内容を確認してOK を押してください。

図49 『SelectPfile』

6.1. (続き)

(3) PcheckRunList を保存します



入力した内容を確認し、Write を押してください。

図50 『Create PcheckRunList』

6.1. (続き)

下記画面が表示されますので、はい(Y) を押して設定を保存してください。

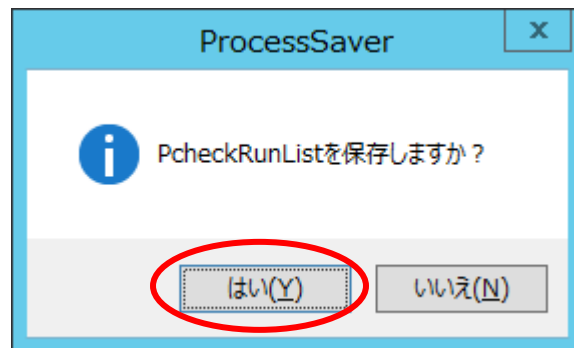


図51 PcheckRunList 保存確認画面

6.2. 自動起動設定の確認

自動起動設定の確認について

- (1) ProcessSaver コンソールを終了し、HA ProcessSaver サービスを再起動します
- (2) HA ProcessSaver サービス再起動後、ProcessSaver コンソールを起動してください

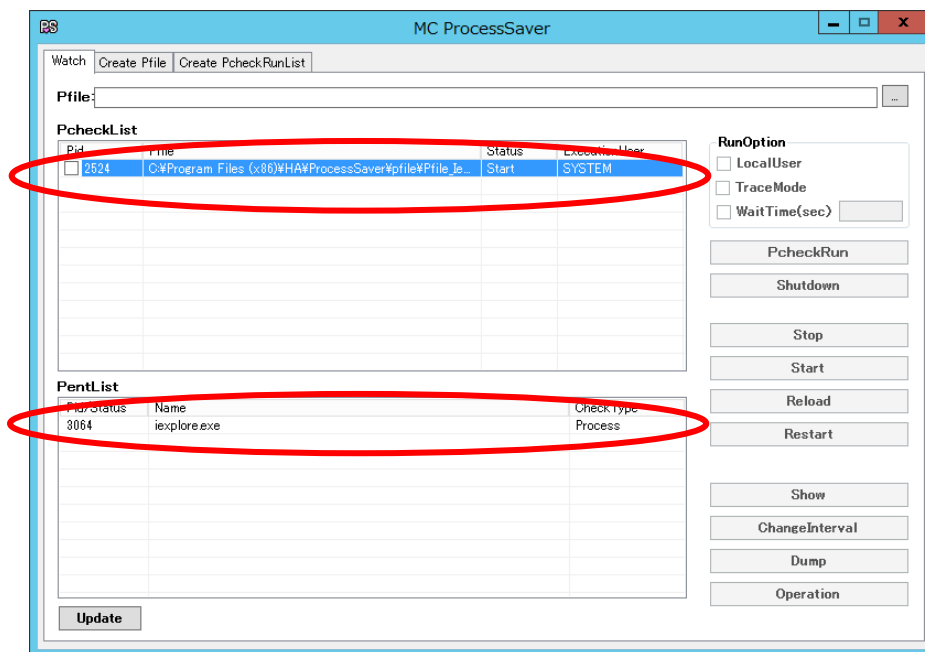
注意

事前に監視対象 (iexplore.exe) を起動してください。

6.2. (続き)

Pcheck の起動確認

- (3) Pcheck の起動を確認します
PcheckList の内容を確認し、
“C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\Pfile_Iexplore_Process”
が表示されていることを確認してください。



注意

HA ProcessSaver サービスの再起動後、PcheckList に表示されるまで約 30 秒程度かかります。

図52 『Watch』

7. おわりに

おわりに

以上、ProcessSaver の基本的な動作となります。

その他の監視対象プロセスについても、同様に設定・監視を実行してみましょう！

また、この他にも同一名プロセスの監視やクラスター連携、グループ監視などシステムにあわせた多種多様な監視を行うことができます。

高度な監視の方式については、各 ユーザーズガイド をご覧ください。

 **Orchestrating** a brighter world

NEC